

幕別町

途 別 7 遺 跡

—道営農業農村整備事業西幕別第3地区埋蔵文化財発掘調査報告書—

令和6年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡遠景 (パノラマ合成) SE → NW



表土除去終了状況 SW → NE



調査状況 SW → NE



調査終了状況 SE → NW



H-1 調査状況 N→S



H-2 調査状況 W→E



H-3 調査状況 S→N



H-2 チャートフレイク出土状況 N→S



H-4 (左)・H-14 (右) 調査状況 NE→SW



H-4 炉 調査状況 W→E



H-5 土器検出作業 NW→SE



H-5 土器出土状況 S→N



H-6 (奥 H-5) 調査状況 NE → SW



H-7 炉 土層断面 S → N



H-8 調査状況 NW → SE



H-16 調査状況 S → N



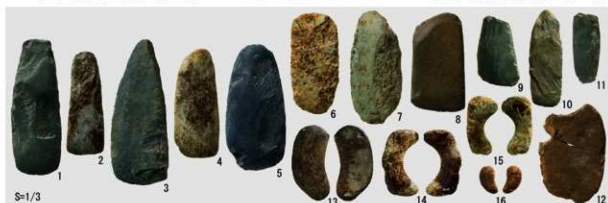
H-16 石斧出土状況 SE → NW



H-16 石斧・石製品出土状況 SE → NW



H-16 石製品出土状況 SE → NW



H-16 出土の遺物

H-6・7・8・16の調査・H-16出土の遺物



P-1 調査状況 SW → NE



P-4 調査状況 W → E



P-11 土層断面 S → N



P-4 調査状況 SE → NW



P-13 土層断面 SW → NE



縦長剥片出土層位 SE → NW



縦長剥片出土状況 SE → NW



F-1 土層断面 S → N



沢跡 土層断面 SW → NE

P-1・4・11・13・F-1・沢跡・包含層の調査

例 言

- 1 本書は、道営農業農村整備事業西幕別第3地区に伴い、令和6年度に当センターが調査を実施した幕別町途別7遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 現地調査は富永勝也・吉田裕吏洋が行った。本書の執筆は藤井、富永、吉田の3名が分担し、文責者は末尾に各弧で記した。全体の編集は富永が担当した。
- 3 各種分析・鑑定等は下記機関に依頼または、委託した。
・放射性炭素年代（AMS 測定） 株式会社 バレオ・ラボ
- 4 石材の鑑定は、富永が担当した。
- 5 現場調査での写真は吉田が撮影し、調査写真、遺物写真、写真図版の編集は吉田が担当した。
- 6 遺物整理は、土器・石器・自然遺物を富永が担当した。
- 7 調査報告終了後の出土遺物および記録類については幕別町教育委員会が保管する。
- 8 調査にあたっては、下記の諸機関・各氏からご指導ご協力をいただいた。（順不同、敬称略）

北海道教育委員会

北海道十勝総合振興局

幕別町教育委員会社会教育課

帯広市教育委員会：森 久大

帯広市：北沢 実、山原 敏朗、熊林 佑允

東京大学：福田 正宏、夏木 大吾

札幌市：西田 茂、松井 昭

芽室町：大橋 毅

凡 例

1. 実測図、拓影図の縮尺は、原則として次のとおりである（変更する場合は各図中にスケールをつけてある）。

遺 構 1 : 40

復元土器 1 : 3 破片土器 1 : 3

剥片石器 1 : 2 磨製石器 1 : 3 礫石器 1 : 3、1 : 2（台石など遺物に応じて使用する）

2. 掲載遺物の写真の縮尺は復元土器は任意、それ以外は上記の通りである。
3. 遺構の遺物出土位置図の記号は、必要に応じ図毎に凡例を添付した。
4. 土層の表記は、基本層序についてはローマ数字で、遺構覆土等の部分的な層位についてはアラビア数字で示した。土層の色調表現は『新版標準土色帳』（1998年版）に従った。
土層注記は①層位名②土色③土性④結り⑤堅密度（固さ）⑥その他の順で示している。

③土性区分

砂土：S 砂壤土：SL 壤土：L シルト質壤土：Sil 埴壤土：CL 埴土：C

④粘着性の区分

粘着性：なし、弱、中、強。

⑤堅密度の区分

触感による：すこぶるしょう、しょう、軟、堅、すこぶる堅、固結。

5. 石器の土器の「付着物」部分は網掛けにて範囲を示した。
6. 図、表に関して章ごとに通し番号とした。
7. 平面図上にテラス状堆積（混合土）と柱痕を網掛けの濃淡で範囲を示した。
なお、テラス状の範囲は想定図である。

（富永）

目次

口絵	
1 遺跡遠景・調査進行状況	2 基本土層
2 H-1・2・3・4・5・14の調査	3 調査の方法
3 H-6・7・8・16の調査・H-16出土の遺物	4 整理の方法
4 P-1・4・11・13・F-1・沢跡・包含層の調査	5 写真撮影
例言	IV章 遺構
凡例	1 遺構の概要
目次	
挿図目次	V章 遺物
表目次	1 遺構の遺物
写真図版目次	2 沢跡の遺物
	3 包含層の遺物
I章 調査の概要	VI章 自然科学的分析
1 調査要項	1 途別7遺跡の放射性炭素年代測定
2 調査体制	
3 調査の経緯	VII章 小括
4 調査結果の概要	1 遺構について
II章 遺跡の位置と環境	2 土器について
1 遺跡の位置	3 石器について
2 遺跡の地形	4 年代値について
3 周辺の遺跡	引用参考文献
III章 発掘調査及び整理の方法	写真図版
1 発掘区の設定と呼称	報告書抄録

挿 図 目 次

I章 調査の概要	図IV-4 H-4
図I-1 出土遺構分布図	図IV-5 H-5
図I-2 周辺の地形	図IV-6 H-6
II章 遺跡の位置と環境	図IV-7 H-7
図II-1 遺跡の位置と周辺遺跡	図IV-8 H-8
図II-2 遺跡の地形	図IV-9 H-9・10
III章 発掘調査及び整理の方法	図IV-10 H-11・12
図III-1 調査区と発掘区の設定	図IV-11 H-13~16
図III-2 基本土層と沢トレンチ土層断面図	図IV-12 中茶路式土器期の土坑
IV章 遺構	図IV-13 P-1~6
図IV-1 H-1	図IV-14 晩式土器期の土坑
図IV-2 H-2	図IV-15 P-7~12
図IV-3 H-3	図IV-16 P-13・14・F-1
V章 遺物	
図V-1 H-1・2	

図V-2	H-2	47
図V-3	H-2・3	48
図V-4	H-3	49
図V-5	H-3・4	50
図V-6	H-4	51
図V-7	H-4・5	52
図V-8	H-5・6	53
図V-9	H-6・7	54
図V-10	H-8	55
図V-11	H-9・11~13・15	56
図V-12	H-16	57
図V-13	H-16・P-1	58
図V-14	P-1・2・4	59
図V-15	P-6・9・12~14・沢付近	60
図V-16	沢付近	61
図V-17	沢付近・包含層	62
図V-18	包含層	63
図V-19	包含層	64

図V-20	包含層	65
-------	-----	----

VI章 自然科学的分析

図VI-1	暦年校正結果	78
図VI-2	(國木田 2014より引用)	79
図VI-3	年代測定サンプル採取位置	80

VII章 小括

図VII-1	竪穴住居の構造模式図(断面図)	84
図VII-2	竪穴住居の炉の位置	84
図VII-3	土器と石鏃・石槍・つまみ付きナイフの 関係図	85
図VII-4	石鏃の形態的分類図	86
図VII-5	早期テンネル・晩式出土遺跡分布 (屈式出土遺跡 2017 に加筆)	87
図VII-6	千歳市イカベツ2遺跡の竪穴跡 (H-10 に加筆)	88

表 目 次

I章 調査の概要

表I-1	遺構数一覧・遺物点数一覧	4
------	--------------	---

II章 遺跡の位置と環境

表II-1	周辺遺跡一覧表	8
-------	---------	---

IV章 遺構

表IV-1	遺構規模一覧表	37
表IV-2	土層注記一覧表	38

V章 遺物

表V-1	掲載土器一覧表	66
表V-2	実測石器一覧表	66

表V-3	遺構出土遺物点数一覧	70
表V-4	沢跡・包含層の出土遺物一覧(B調査 埋め戻し・トレンチ・その他)	72
表V-5	途別7遺跡 出土遺物点数一覧	74

VI章 自然科学的分析

表VI-1	測定資料及び処理	75
表VI-2	放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果	77

VII章 小括

表VII-1	テンネル・晩式土器出土遺跡一覧表	87
--------	------------------	----

写 真 図 版 目 次

図版1 調査進行状況

図版2~10 竪穴住居の調査

図版11~13 土坑の調査

図版14 沢跡の調査・調査状況

図版16~17 竪穴住居出土の遺物

図版18 竪穴住居・土坑出土の遺物

図版19 土坑・沢付近出土の遺物

図版20 包含層出土の遺物

I 章 調査の概要

1 調査要項

事業名 道営農業農村整備事業西幕別第3地区埋蔵文化財発掘調査
 委託者 北海道十勝総合振興局
 受託者 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
 遺跡名 途別7遺跡（登録番号L-14-106）
 所在地 中川郡幕別町字途別259-1
 面積 2,175㎡（調査範囲の拡張により2,100㎡から変更）
 調査期間 令和6年7月1日～10月5日（発掘調査）
 令和6年7月1日～令和7年3月14日（整理作業）

2 調査体制

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 長沼 孝	第2調査部 部長 藤井 浩
専務理事 馬橋 功（事務局長兼務）	第1調査課 課長 村田 大
常務理事 鈴木 信（第1調査部長兼務）	主査 富永 勝也（発掘担当者）
	主査 吉田裕史洋（発掘担当者）

3 調査の経緯

（1）道営農業農村整備事業

本調査は令和6年度十勝総合振興局農業農村整備事業に係るものである。管内では畑作や酪農を中心とした大規模農業経営が、規模の拡大や基盤整備を進めながら展開され、国内の食料供給にとって重要な役割を果たしている。特に畑作は麦類、豆類、馬鈴しょ、てん菜の4品目を主体に、道内一の生産量を誇るものが多い。農業農村整備事業では、このような農業支援のため、農業用水を確保するためのダムや堰の建設、営農条件を改善するための畑の整備、農産物などを運搬するための農業用道路の整備、農村の環境整備などが行われる。今回の調査の原因となった事業は圃場整備で、現地形を切り下げることで平坦な耕作地を広げることを目的としたものである。

（2）包蔵地試掘調査

埋蔵文化財に係る協議は平成16年に地元の土砂採取業者から幕別町教育委員会に提出されたことによる。この周辺地域では農地下に礫層を伴うことが知られ、農地改良を目的とした砂利採取が行われることが多い。この件も農地の一時転用で砂利採取を行い、採取後は埋め戻して農地に復元する計画となっていた。この協議を基に北海道教育委員会により、同年5月26、27日に、採取計画範囲の27,530㎡を対象に試掘調査が行われた。その結果、石刃、スクレイパーなど縄文時代早期の遺物が出土し、発掘調査と工事立会を要することとなった。対象範囲のうちの2,100㎡が要発掘、2,000㎡（当時）が要立会となった（図Ⅲ-1）。

（3）発掘調査の経過

試掘調査後20年を経て、当該範囲の発掘調査が北海道十勝総合振興局から当センターが委託を受けて行われることとなった。これは令和6年度から始まった水利施設等保全高度化事業（畑地帯総合

整備事業)西幕別第3地区に伴うものである。

現地調査を前に道十勝総合振興局、町教育委員会、現地の耕作者である土地所有者との立会を行い、せん虫の侵入など畑作地での作業で留意することや調査中の耕作土の扱い、埋め戻しの方法などを打ち合わせた。

現地での作業は6月の基準点測量と調査範囲杭打設から行われた。調査範囲設定後、重機による表土除去を6月末に行った。土地所有者指導の下、耕作土を掘り下げ、隣接地に移したところ、この時点で遺物包含層の大半がすでに失われていることが明らかになった。

発掘調査は令和6年7月1日に着手した。包含層は失われていたものの、表土及び撹乱土には石器を主とした遺物が多く含まれていた。また、遺構確認面に当たるローム層面上には数か所遺構と推定される黒褐色土の輪郭が確認できた。

調査区外に及ぶ遺構も確認されたため、8月29日に道教委、道十勝総合振興局、当センターと現地で協議を行い、調査区南西側の一部75㎡を調査範囲として拡張した。これに併せて、当初設定されていた工事立会の範囲が新たに見直しされた(令和6年9月2日付教文博第1697号)。

また、調査が進むに従って、ローム層中に遺物包含層が及ぶ可能性が強くなったため、調査最終週にはグリッドL3、J3の2か所50㎡の範囲を重機により掘り下げ、遺構、遺物の確認調査を行った。基盤の礫層まで1mほどを掘り下げたが、いずれも確認できなかったため、当初の予定通り10月5日に発掘調査を終了した。

調査期間中には7月25日と9月18日に途別小学校の児童による体験発掘、見学会も行われた。7月には北海道新聞社帯広支局、十勝毎日新聞社の取材を受けた。8月21日、北海道新聞帯広版に記事が掲載された。

4 調査結果の概要(図I-1・2 表I-1)

調査区は平坦な段丘面上に位置する。遺物包含層の大半が失われていたため、ローム層面上での遺構確認のかたちで調査を行った。遺構は、縄文時代早期に相当する堅穴住居跡16軒、土坑14基及び焼土跡1か所を確認した。

堅穴住居跡はすべて縄文早期中葉の晩式に相当する時期のもので、この遺跡は当該期の集落跡と考えられる。堅穴は直径5mほどの大型のもの8軒と、それ以下の小型のもの8軒とに分けることが出来た。晩式土器を伴う住居跡及び土坑の覆土には樽前dテフラの15cm程の層状の堆積がみられ、樽前山の噴火以前に構築されたことがうかがえるとともに、遺構確認及び検出に至る手がかりとなった。

土坑は14基のうち、8基が晩式土器、6基が早期後半の中茶路式土器を伴うものであった。これらはいずれも直径1m前後で、晩式土器を伴うものはその土層断面がフラスコ状を呈するものが多い。また、早期後半の土坑については、遺物の出土状況から、墓として構築された可能性が高い。

焼土は調査区中央付近で堅穴住居跡に隣接して1か所検出された。

これらのことから、晩式土器期の集落跡と重なる範囲で、中茶路式土器期の墓域が形成されたものと考えられる。調査区北西端には沢跡も検出されたことから、これに沿って集落と墓域が営まれた可能性も考えられた。

遺物は総点数20,205点で、土器が6,314点、石器が9,444点である。石器が多く、特に黒曜石製の剥片が多いのが特徴である。

土器は縄文時代早期から前期のものが出土したが、遺構出土の縄文時代早期のものがほとんどである。早期中葉に相当する晩式土器は堅穴住居跡から多く出土し、早期後半の中茶路式土器は土坑から

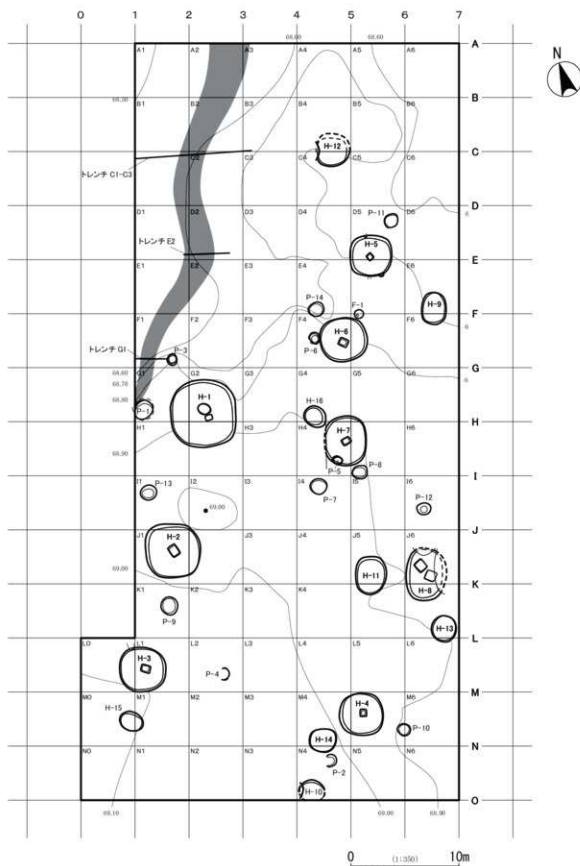


図 I-1 出土遺構分布図

表 I-1 遺構数一覧・遺物点数一覧

遺構数	時期	竪穴住居跡	土坑	焼土	合計数
	縄文時代早期中葉	16	8	1	25
	縄文時代早期後葉	—	6	—	6
	合計数	16	14	1	31

遺物 総数		土器	土・石製品	石器	フレイク	硬ほか	合計
	遺構	6140	12	1008	4265	2621	14046
	遺物包含層ほか	174	14	976	3195	1800	6159
	総数	6314	26	1984	7460	4421	20205



図 I-2 周辺の地形

の出土が多い。

石器は堅穴覆土の下層から黒曜石製の縦長剥片が多数出土したほか、同様の素材を用いた剥片石器（石鏃・石錐・ナイフ・彫器・槍先）が出土する。砂岩や花崗岩、閃緑岩が加工された大・小の礫石器（台石・すり石・叩き石・磨製石斧など）も多く出土している。（藤井）

II 章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置（図Ⅱ-1）

遺跡は帯広市との境界に近い幕別町にあり、札内駅からは南へ5.5km、幕別駅からは西南へ12km、帯広市街地からは約6kmにある。

幕別町は十勝管内の中央南部に位置し、東西20km、南北47km、面積は477km²である。町域の西側は札内川を境とし帯広市と、東側は池田町及び豊頃町と、南側は更別村と接し、北側は大きく蛇行しながら東に流れる十勝川を挟んで音更町と接する。町域の地形の大半は標高20から200mの丘陵地形から形成されており、畑作地及び草地が多い。

遺跡はこの南北に長い幕別町の北部西側にあたる途別地区に位置する。この途別地区も途別川に沿った南北に細長い形で、東は札内川を挟んで帯広市愛国地区と境を接し、北は幕別町依田、西は日新、南は古舞地区と隣接する。地形は途別川の両岸に広がる低平地と河岸段丘で、地区全体に畑作耕作地が広がる。

途別地区の中では遺跡は中央西寄りにある、途別川を渡った遺跡の北東1kmには町立途別小学校やコミュニティセンターなどがあり、地区集落の中心に当たっている。

遺跡の座標位置は、緯度、経度で北緯42.85852 東経143.22273である。平面直角座標系では、XⅢ系 X=126292.406 Y=-83940.116（調査範囲中心 H-4 杭）にあたる。

2 遺跡の地形

（1）丘陵と段丘

十勝管内の主な地形は、十勝川とその流域の低平地（沖積地）、河岸段丘（洪積地あるいは台地）、そして起伏の大きい丘陵地に分けられる。中でも特に段丘地形が幾重にも発達しているのが特徴で、遺跡立地を理解する上でも重視されている。

丘陵では、幕別地域では大きく西から上札内台地、幕別台地、豊頃丘陵に分けることが出来る。上札内台地は西側を札内川によって区切られ、東を途別川によって幕別台地と画されている。豊頃丘陵とは銀別川とその支流の糠内川を境に分けることが出来る。いずれも南北に長く延びる地形で、上札内台地については幕別町内の北部分で特に細長くなる部分は「依田台地」とも呼ばれている。

十勝平野においては段丘がこれらの台地を縁取るように幾重にも発達していて、高位の光地園面から低位の中札内面に区分されている。

遺跡は依田台地の東側、途別川に面した段丘上に立地する。周辺には途別川に直面する低位段丘と比高差5～7mほどの高位段丘がある。遺跡は低位段丘上にあり、これは上札内Ⅱa面と呼ばれる段丘面に相当するものと考えられる。高位の段丘は上札内Ⅰ面に当たる段丘面と考えられる。

（2）途別川

遺跡の面する途別川は、十勝平野の中央部を流れる一級河川である。十勝川の支流で、帯広市南東部から幕別町の途別地区、札内地区を流れる。水源は帯広市南東部の帯広空港の西側にあり、北流

し、J R札内駅付近で北西に転じ中川郡幕別町字相川で十勝川に合流する。延長距離は39.4kmである。源流が平坦な丘陵上にあるのが十勝管内では珍しく、周囲の山や丘陵からの伏流水と豊富な湧水をあつめて流れるという特徴がある。途別の地名由来もアイヌ語地名によったものとされるが、幕末期に北海道を踏査した松浦武四郎が、『戊午 東西蝦夷山川取調日誌』（松浦1859）の中で「トウベツ」を「水源に沼がある」の意味であると記している。遺跡周辺の地下水の豊富な様子がうかがえる。

（3）調査区内の微地形

調査区は現標高が70mで、平坦な河岸段丘面に相当する。南北に長い調査区は南西から北東に向かって緩やかに下る細い尾根状の地形が見られる。北西側の礫層が表出したあたりは沢跡と考えられ、畑として造成される以前には、調査区内西側に湧水があり、これを水源とする沢が流れていたことを近隣の住民から聞くことができた。調査区周辺の砂礫層から今なお湧水が見られることから、水資源の豊富な当時の環境が想像される。

3 周辺の遺跡（表Ⅱ-1 図Ⅱ-2）

（1）幕別町内の遺跡

本調査時の幕別町内の埋蔵文化財包蔵地数は132か所、隣接する帯広市は64か所である。十勝管内でも幕別町は周知の包蔵地数が最も多いところになる。

幕別町内の遺跡分布は、地形的には河川沿いの河岸段丘上に多く分布しており、これらは大きく途別川、猿別川、忠類地区の当緑川流域に分けることが出来る。最も分布が集中するのは依田台地とも呼ばれる上札内台地の北端にあたる札内地区の遺跡群で、札内N遺跡のような札内川寄りの遺跡から途別川の右岸にまで分布が広がっている。

途別地区の遺跡は4か所、分布は疎である。本遺跡から最も近いところで、1km南の途別川左岸に途別8遺跡がある。途別8遺跡は本遺跡と同じ段丘面上にあり、縄文時代早期と晩期の遺物包含層が確認されている。途別C、D遺跡は本遺跡の南南東約2kmに位置し、C遺跡では縄文時代前期、中期の遺物、D遺跡では縄文時代中期の遺物が確認されている。

この内、発掘調査が行われた遺跡は、古くから南勢A（石橋ほか1979）、猿別C（石橋・佐藤1983）、古舞4（石橋・佐藤1984）、札内1（石橋編1985、松谷編1985）、札内D（石橋編1989）、札内K（大矢編1991）、日新F（森内編1999）、札内N（大矢編2000）で、今回の途別7遺跡の調査は町内で9か所目の調査となり、また当センターとしては初めての調査である。

（2）途別川流域の遺跡

途別7遺跡が位置する途別川流域には上流から下流まで、数多くの遺跡が点在している。

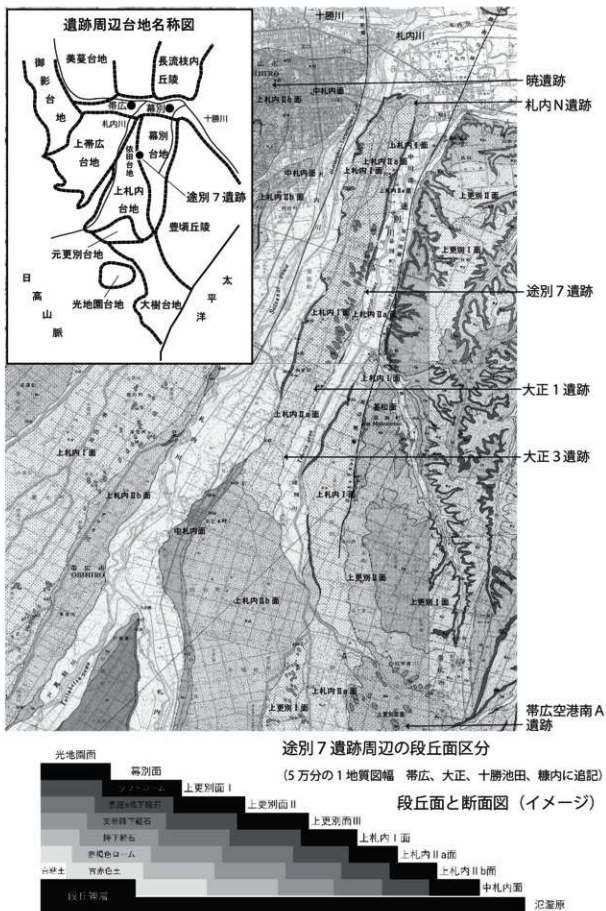
上流部は帯広市内にあたり、最上流部、猿別川との分水嶺に近くには帯広市空港南A遺跡がある。旧石器時代で知られる「上似平・勢雄遺跡群」の一角を占め、本遺跡の南15km、帯広空港の南に位置する。

空港南A遺跡は昭和57（1982）年の調査により、旧石器時代の遺跡であることが明らかになった。令和2（2020）年には、当センターによる空港整備事業に伴う発掘調査が行われ、有舌尖頭器石器群と不定形剥片石器群が検出された。特に不定形剥片石器群は暦年代値で29,871～30,162cal BP（2σ）に位置づけられ、道内最古級のものとして注目される。

上～中流域にかけては、帯広市と幕別町の境近くの川左岸に帯広市大正遺跡群がある。本遺跡の南南西4～6kmにある遺跡群は大正1から8遺跡で構成され、北の下流側に1、2、6遺跡、南の上流側に3、4、5、7、8の2か所にまとまりがある。北のまとまりは標高90mの、本遺跡と同じ上

[illegible]

表 II-1 周初清跡一覽表



図II-2 遺跡の地形

札内Ⅱaの段丘面上、南のまとまりは、標高90～100mの上札内Ⅱbの段丘面上に立地する。このうちの大正3遺跡では平成15年に発掘調査が行われ、北海道最古となる約14,000年前の縄文時代草創期の爪形文などの土器が出土して注目された。

中流域には古舞川との合流点を中心に、古舞2、6、7、途別E遺跡が本遺跡の南2～3kmに位置する。

下流域には、本遺跡から北西2～3kmの右岸に日新A、B、C、E、F遺跡が標高100～120mの段丘上に立地する。上更別Ⅰ面に立地する日新F遺跡では平成10年に発掘調査が行われ、縄文中期の遺構、遺物を主体に、縄文前期、旧石器時代の遺物が確認された。さらに下流、本遺跡の北3kmの左岸には途別A遺跡、B遺跡がある。

さらに下流では、札内川にも近い依田台地の北端、標高60mに札内A、B、K～Nがまとまって分布している。このうち札内N遺跡は本遺跡から5kmの上札内Ⅰ面に立地する。平成12年に発掘調査が行われ、縄文晩期の墓壇群と有舌尖頭器などの旧石器、縄文晩期を主とする遺物群が出土した。また、本遺跡から北北東6kmの上札内Ⅰ面に立地する札内K遺跡は、平成2年、15、16年、19年に発掘調査が行われ、旧石器、縄文早期及び晩期の遺構、遺物が主に確認された。

(3) 遺構・遺物に関連する遺跡

帯広市晩遺跡は本遺跡の北西7kmにある。堅穴住居跡などの遺構から出土した縄文時代早期中葉の晩式土器の標式遺跡である。帯広駅に近い、標高約45mの十勝川（帯広川）左岸の河岸段丘上に立地する。段丘は上札内Ⅱb面に相当するとされる。1961年から数次にわたって発掘調査が行われ、主に縄文時代早期中葉の土器（晩式土器）と後期旧石器時代後半期の細石刃石器群が出土した。

帯広市八千代A遺跡は本遺跡の南西25kmにある。本遺跡と同様、縄文時代早期前半の集落遺跡である。帯広市南西部の八千代地区、標高約280mの戸蔭別川左岸の河岸段丘上に位置する。昭和60年からの発掘調査で縄文時代早期前半の堅穴住居跡103棟をはじめ、土坑など数多くの遺構が出土し、当該期の大規模集落跡であることが明らかになった。また遺跡の出土遺物については平成30年に国の重要文化財に指定されている。（藤井）

Ⅲ章 発掘調査及び整理の方法

1 発掘区の設定と呼称（図Ⅲ-1）

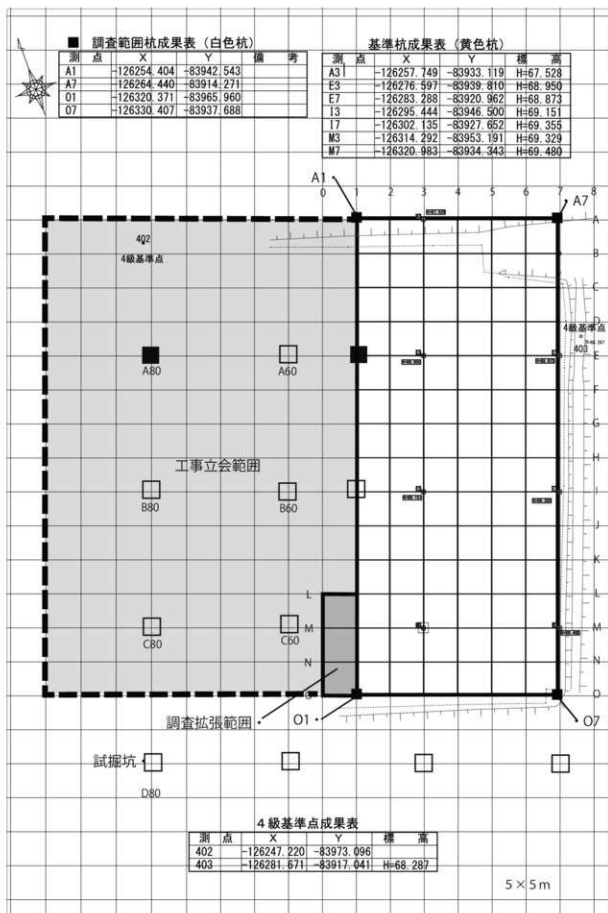
調査区の設定にあたっては、試掘調査報告書添付図面（調査平面図1：2500）を基に現地の地形から範囲を設定した。現地の地形は北、東、南側の3面が土砂採取により深く掘り下げられ、台形状に高く取り残された状態になっている。

発掘区の設定にあたっては、調査区西端ラインと北端のラインとの交点を原点（A1）とし、南方向5m毎にAからN、西方向に1から6とした座標を設定した。各発掘区の呼称はグリッドの北西角の交点の座標を用いた。また、南北の座標軸は磁北から東方向へ20度傾いている。

期間中に調査範囲の拡張があったため、調査区南西側のL、M、Nのラインについては調査区界の西側1グリッド分5mを拡張し、それぞれL0、M0、N0とした。

2 基本土層（図Ⅲ-2）

遺跡の地形に記したように、本遺跡の立地する河岸段丘面は上札内Ⅱa面と考えられるため、段丘礫層の上に恵庭a降下軽石をはさむローム層、さらにその上に樽前d（Ta-d）以降の火山灰を介在す



図Ⅲ-1 調査区と発掘区の設定

る腐植土が発達することが基本となる。

発掘調査の基本土層はこれを基に周辺遺跡の調査成果及び試掘調査成果を併せて次のように区分した。色調及び土層の観察項目は『標準土色帖』（小山・竹原 2011）による。

I 層：表土、ほとんどが耕作土である。部分的に樽前 b（Ta-b）または c テフラ（Ta-c）層を含む。剥片類を主とした遺物を多く含む。

II 層：黒色土 調査区西壁の一部のみで見られたが、I 層にきわめて近似する。本調査区内ではほとんど確認できなかった。

III 層：暗褐色土 縄文時代の包含層に相当する。途別川流域の遺跡では縄文時代の主要な遺物包含層であるが、本調査区内ではほとんど確認できなかった。樽前 d テフラ（Ta-d）層を部分的に含む層とされ、縄文時代早期中葉の遺構の覆土内で確認されている。

IV 層：漸移層とローム層 縄文時代早期中葉から旧石器時代の包含層に相当する。ローム層と恵庭 a 降下軽石層からなる。

V 層：砂礫層 段丘の基盤礫層である。

3 調査の方法

(1) 掘削・土工

発掘調査は調査区のほぼ全域に堆積する表土、耕作土を重機で除去することから開始した。耕作土と礫は再利用されるため、耕作土以外の排土と分別して置かれることになった。I 層除去後の時点で、ほぼ全面に IV 層のローム層面と部分的に礫層を確認することが出来た。この段階で調査区南西側に堅穴住居跡の輪郭 3 か所が確認された。遺物包含層は失われていると判断したため、この面からは鋤鎌を用いて人力で精査を行い、遺構検出を優先した。

(2) 遺構調査と実測

遺構は、最初に確認された 3 か所の堅穴住居跡の掘り下げから着手した。覆土中の Ta-d が表出したこの 3 軒以外は、確認面上におよそのプランが確認された段階で、トレンチを設定して、覆土の上位から順に掘り下げた。床面及び壁面の立ち上がりを確認できたものから、土層観察ベルトを設定して全体を掘り下げた。また、堅穴住居跡の床面に残る炉跡の土壌についてはすべてサンプリングし、水洗作業の上、炭化物、遺物を抽出した。

遺構の測量及び実測について、土層断面図は、iPhone Pro 搭載の LiDAR スキャナを用いた 3D 計測アプリ「Scaniverse」によって作成し、Adobe Illustrator で図化した。遺構図及び遺構分布図作成に当たっては写真撮影に使用したドローンの画像から作成し、Illustrator で図化した。

4 整理の方法

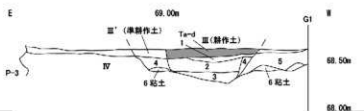
(1) 一次整理

土器、石器などの遺物は、現地で遺跡名：（略号とベタ）：出土地点（遺構名、グリッド）、出土層位、遺物種別（PFS）、取り上げ番号、取り上げ年月日を記したビニール袋に取り上げた。現地事務所では「取り上げ台帳」に記録し、一次整理作業の基本とした。遺物は水洗、乾燥を経て分類し、出土位置などの個別の情報を記載した「遺物カード」を作成し、ビニール袋に遺物とともに収納した。遺物カード記載の情報は「遺物台帳」として一覧表を Excel で作成し、二次整理に向けての基礎とした。土器には、出土位置などの情報を略して直接注記をした。

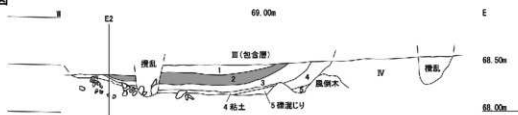
I	表土及び耕作土	Ta-b Ta-c
II	黒色土	
III	暗褐色土 (縄文時代の包含層)	Ta-d
IV	漸移層 (縄文時代早期中葉の ローム層 包含層)	
V	砂礫層(海成層)	

基本土層模式図

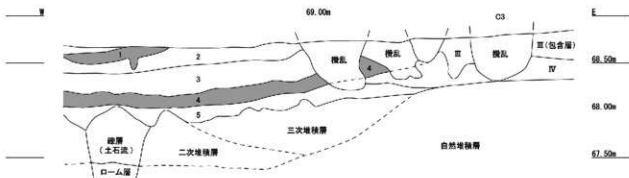
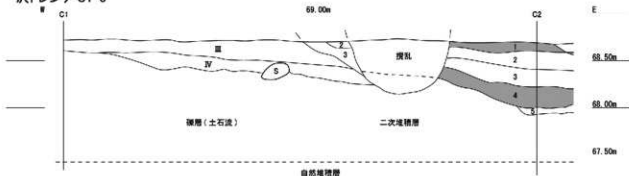
沢トレンチ G1



沢トレンチ E2



沢トレンチ C1-3



0 (1:40) 1m

図Ⅲ-2 基本土層と沢トレンチ土層断面図

(2) 二次整理

土器は注記後に接合作業を行った。全体の器形がわかるものや、特徴的な模様などを伴うものを抽出し、接着・補強または復元作業を行った。復元土器については実測図を作成し、トレース後にスキャナーでパソコンに取り込み、データ化を行った。また抽出した破片資料については拓本を採り、断面実測とあわせて資料化を行った。拓本は実測図同様にデータ化し、Illustrator で断面図と組み合わせ挿入図を作成した。

石器については器種毎に分類し、特徴を代表するものを抽出して実測図を作成した。トレース後にデータ化を行い、挿入図を作成した。また、礫については石材別に分類して整理した。

(3) 遺物の分類

【土器】当センターの分類基準に基づき、時期別にⅠ群（縄文草創期）Ⅱ群（早期）、Ⅲ群（中期）、Ⅳ群（後期）、Ⅴ群（晩期）、Ⅵ群（続縄文）、Ⅶ群（擦文）とした。

今回遺物の出土したⅠ群、Ⅱ群、Ⅲ群については、Ⅰ群 a（前半）・b（後半）、Ⅱ群 a（前半）、Ⅲ群 b（後半）類を用いた。既知の土器群、型式名称については、Ⅰ群 a 類（縄文前期前半）に相当する「晩式」、Ⅰ群 b 類（縄文前期後半）に相当する「中茶路式」を用いたところがある。破片の部位については基本的に口縁部・胴部・底部に分類した。

【石器】器種別に剥片石器と礫石器とに大別した。剥片石器は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ（石匙）・スクレイパー・彫器・削器・搔器・U.R フレイク（種状剥離が認められるものもある）・石核・原石、礫石器は石斧・石斧原石・たたき石・すり石・扁平打製石器・石錘・砥石・台石石皿に分類した。残存状態から、完形・一部欠損・部分欠損・部分片に分類した。

【礫】加工痕や被熱の有無、円礫・角礫・扁平礫などの形状、完形か破片かの残存状態で分類した。また、石器、礫については石材別に分類した。

5 写真撮影

現場撮影、スタジオでの撮影共に、フルサイズミラーレスカメラ（SONY α 7RⅣ）を用いて、同一カットを同じ条件（シャッタースピード・露出）で2コマ撮影し、それをもって1セットとした。撮影に際しては、カラーチェッカーパスポート（X-rite 社）のホワイトバランスターゲットを用いてカメラのホワイトバランスを調整した後、同カラーチャートを撮影してから本撮影を行った。撮影したカラーチャートからRAWデータ現像時にプロファイルを作成、本撮影のデータに適用して、カラーバランスの統一を図った。

現場では、ドローン（DJI MAVIC 2 PRO）での空撮や、メモ写真として、コンパクトデジタルカメラ（SONY RX 0Ⅱ）での撮影も行った。全ての撮影データはRAW形式で記録し、Adobe Lightroom で現像処理を行った。撮影データは、FileMaker Pro で管理している。

6 保管

今回の報告に関する出土遺物は令和7年3月現在、幕別町教育委員会で収納保管され、図面等・写真については道立北海道埋蔵文化財センターで保管している。図面及び写真類はすべてデジタルデータで保管されている。

（藤井）

IV 章 遺構

1. 遺構の概要

遺構は北西端を流れる沢跡の地形に沿って分布する。堅穴の内訳は、炉をもつ堅穴住居跡が8基、炉をもたない小型堅穴が6基で、沢に沿って住居跡が3軒1単位で並び、その周囲に小型の堅穴が衛星的に造られる。土坑は、I群a類土器期の土坑が8基、I群b類土器期の墓壙と推察される土坑が6基である。覆土に樽前dテフラ層が堆積する遺構は全てI群a類期に所属する。遺構本来の構築面は、Ⅲ層下部～漸移層中と考えられるが、包含層のⅢ層及びⅣ層上面は、畑作のプラウにより東西南北から十字に攪拌され、Ⅳ層の上位10cm程が耕作攪乱の最深部になる。耕作土除去後に精査し表面を観察すると、プラウの溝内の土に橙色の樽前dテフラの粒子が混入する部分が各所に散見されることにより、ここが遺構であることがわかった。

H-1 (図Ⅳ-1・図版2)

確認・調査 Ⅳ層中において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の隅丸方形の拡がりを検出した。

形態 輪郭は隅丸方形である。床面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。

覆土 樽前dテフラがうねりをもって堆積する。床直上に、炉から出た炭灰もしくは、構築材の燃焼残骸の由来と思われる黒色土が堆積する。覆土の下層壁際では、黒色土の下に恵庭テフラの風化した砂・ロームの混合土が見られ、土層断面では内側に緩く傾斜する。この混合土上には黒い斑状となった浅い凹みが北東・南東部に確認された。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層の互層の上に平坦な床面が構築されている。炉跡を床面で確認した。

付属遺構 H-8と同じく炉跡が2か所確認された。上位にあるHF-2が新しく、楕円形、HF-1が古く方形である。明瞭な柱穴は見られず、混合土上で確認された浅いくぼみが柱痕跡の可能性が考えられる。図上ではトーンで示した。

遺物出土状況 遺物は283点出土し、うち土器は7点。土器・石器ともに他の遺構に比べ少ない。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

H-2 (図Ⅳ-2・図版3)

確認・調査 Ⅳ層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の隅丸方形の拡がりを検出し、Ⅳ層上面のプラウ攪乱層を除去しながら輪郭を確認した。

形態 輪郭は隅丸方形である。床面は平坦で、壁の立ち上がりは既ぬねやかである。

覆土 樽前dテフラが厚く堆積する。覆土の下層壁際には、壁から炉跡に向けて緩やかに下るように恵庭テフラの風化した砂・ロームの混合土の堆積が見られた。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層との互層の上に平坦な床面が構築されている。

付属遺構 HF-1は方形で、覆土中から土器片や石器剥片が多く出土した。炉の上層で太めの炭化材が出土した。

遺物出土状況 遺物は2782点出土し、うち土器は613点。炉の東側で台石が出土した。I群a類期の土器が1個体復元出来た。底部片は2個体分で計3個体。縦長剥片が69点と他の石器に比べ多く出土した。

時期・分析 縄文時代早期初頭に属する。炉内炭化材の ^{14}C 年代測定値($\delta^{13}\text{C}$ 補正): $8129 \pm 29\text{yrBp}$ 。

H-3 (図Ⅳ-3・図版4)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の隅丸方形の拡がりを検出した。

形態 輪郭は隅丸方形である。床面は概ね平坦で、壁の立ち上がりは急である。

覆土 樽前dテフラが堅穴中央部に堆積する。その堆積状況から、柱痕跡はテラス状上面に班状に残るが浅く、ひと割りて消失する。図上ではトーンで示した。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層との互層の上に平坦な床面が構築されている。堅穴内周に段状の緩い傾斜を作り、屋根材を支える支柱が四方から中央に向けて、置く形で配されていたようである。テラス部分には柱穴ではなく黒い斑状となって柱底面痕がわずかに残る。堅穴南側は暗渠設置工事により破壊されていた。

付属遺構 HF-1は覆土中から土器片や石器剥片が多く出土した。

遺物出土状況 遺物は1680点出土し、うち土器は920点。炉の東側で台石が出土した。I群a類期の土器が2個体復元出来た、うち1点はミニチュア土器である。ほかに底部片は3個体分で計5個体。P-13出土の碗状の底部破片が接合した。

時期・分析 縄文時代早期中葉に属する。炉内炭化材の ^{14}C 年代測定値(δ^{13} 補正): $8231 \pm 28\text{yrBp}$ 。

H-4 (図Ⅳ-4・図版5)

確認調査 IV層上面において、樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる黒色土の円形の拡がりとそれを囲む樽前dテフラのドーナツ状のリング、さらにその外周に隅丸方形の暗褐色土の拡がりを検出した。

形態 輪郭は隅丸方形である。床面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

覆土 樽前dテフラがほぼ水平に堆積する。覆土の下層壁際には、黒色土の下に恵庭テフラの風化した砂・ロームの混合土が見られ、断面上、内側に緩く傾斜する。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層との互層の上に平坦な床面が構築されている。

付属遺構 HF-1は覆土中から土器片や石器剥片が多く出土した。

遺物出土状況 遺物は2402点出土し、うち土器は2187点。炉の東側で台石が出土した。堅穴北東と南東部の壁近くで残りの良い個体が一括で出土し、I群a類期の土器が2個体復元出来た。底部片は3個体分で計5個体ある。

時期・分析 縄文時代早期中葉に属する。炉内炭化材の ^{14}C 年代測定値(δ^{13} 補正): $8177 \pm 28\text{yrBp}$ 。

H-5 (図Ⅳ-5・図版6)

確認調査 IV層上面において、樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる黒色土の円形の拡がりとそれを囲む樽前dテフラのドーナツ状のリング、さらにその外周に隅丸方形の暗褐色土の拡がりを検出した。

形態 輪郭は隅丸方形である。床面は概ね平坦であるが、東西方向にやや傾斜と起伏が見られる。壁の立ち上がりは急である。

覆土 樽前dテフラが深く落ち込むかたちで堆積している。覆土の下層壁際には、黒色土の下に恵庭テフラの風化した砂・ロームの混合土が見られ、断面上、内側に緩く傾斜する。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層との互層の上に平坦な床面が構築されている。

付属遺構 HF-1は隅丸方形を呈する。混合土上で確認された浅いくぼみが柱痕跡の可能性が考えられる。図上ではトーンで示した。

遺物出土状況 遺物は536点出土し、うち土器は365点。I群a類期の土器が厚手のもの、薄手のもののそれぞれある。口縁部に円孔(未貫通)の破片はH-7出土のものとは別個体。1個体が復元できた。底部片は1個体分で、3個体以上が含まれている。

時期・分析 縄文時代早期中葉に属する。炉内炭化材の¹⁴C年代測定値(δ¹³補正): 8204 ± 29yrBp。

H-6 (図IV-6・図版7)

確認調査 IV層上面において、樽前dテフラ粒子が混ざる黒色土の円形の拡がりとそれを囲む樽前dテフラのドーナツ状のリング、さらにその外周に隅丸方形の暗褐色土の拡がりを検出した。

形態 輪郭は隅丸方形である。床面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。

覆土 樽前dテフラが緩やかに落ち込むかたちで堆積する。覆土の下層壁際には、壁から炉跡に向けて緩やかに下るように恵庭テフラの風化した砂・ロームの混合土の堆積が見られた。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層との互層の上に平坦な床面が構築されている。

付属遺構 HF-1は隅丸方形を呈する。

遺物出土状況 遺物は780点出土し、うち土器は529点。炉の北東側で台石が出土した。I群a類の土器の底部片が2個体分出土した。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

H-7 (図IV-7・図版8)

確認調査 IV層上面において、樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる黒色土の円形の拡がりとそれを囲む樽前dテフラのドーナツ状のリング、さらにその外周に隅丸方形の暗褐色土の拡がりを検出した。

形態 輪郭は隅丸方形である。床面にはやや起伏が見られ、壁の立ち上がりは急である。

覆土 樽前dテフラが緩やかに落ち込むかたちで堆積する。覆土の下層壁際には、壁から炉跡に向けて緩やかに下るように恵庭テフラの風化した砂・ロームの混合土の堆積が見られた。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層との互層の上に平坦な床面が構築されている。

付属遺構 HF-1は隅丸方形を呈する。覆土に土器片、石器薄片が多く含まれていた。

遺物出土状況 遺物は2849点出土し、うち土器は429点。I群a類の口縁部に円孔(未貫通)の施されたものがある。H-5出土のものとは別個体である。南西側の床面でフレイクチップが集中して出土した。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

H-8 (図IV-8・図版8)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の隅丸方形の拡がりを検出した。

形態 輪郭は隅丸方形と推測される。北側と東西に風倒木の攪乱があり、正確な形状は不明。床面はやや起伏があり、壁の立ち上がりは急である。

覆土 他遺構に比べ樽前dテフラが上位に堆積し、緩やかに落ち込むかたちで堆積している。恵庭aテフラが東側で厚く堆積し風倒木の攪乱の影響がみられた。覆土の下層壁際には、壁から炉跡に向けて緩やかに下るように恵庭テフラの風化した砂・ロームの混合土の堆積が見られた。

床 床は砂利層を掘り込んで作られ、砂層と粘土層との互層の上に平坦な床面が構築されている。

付属遺構 H-1と同じく炉跡が2か所確認された。いずれも隅丸方形を呈する。HF-2では覆土に土器片や石器剥片が多く含まれていた。

遺物出土状況 遺物は607点出土し、うち土器は288点。HF-1の東側で台石が出土している。I群a類の中でも薄手の土器で、口縁部と底部片は同一個体だが接点が見つからなかった。縦長剥片が66点出土。

時期・分析 縄文時代早期中葉に属する。炉内炭化材の¹⁴C年代測定値(δ¹³補正): 8217 ± 29yrBp。

H-9 (図IV-9・図版9)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出した。

覆 土 樽前dテフラが上位に堆積する。風化した恵庭aテフラがその下層の覆土に混ざる。H1～8の住居跡と違い、構築時の床面は恵庭のローム層中下位に留まる様である。炉跡は検出されていない。

遺物出土状況 他の遺構に例のない大型の削片が出土した。礫石器ではたたき石が出土している。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

H-10 (図Ⅳ-9・図版9)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出した。

覆 土 樽前dテフラが上位に堆積する。風化した恵庭aテフラがその下層の覆土に混ざる。

遺物出土状況 石核片が1点出土している。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

H-11 (図Ⅳ-10・図版9)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出した。

覆 土 樽前dテフラが上位に堆積する。風化した恵庭aテフラがその下層の覆土に混ざる。炭化材片が覆土中に多く含まれていた。

遺物出土状況 遺物は9点出土し、うち土器1点。I群b類は廃棄後の窪みに混入したものであろう。三角形の無茎の石鏃、剥片が出土している。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

H-12 (図Ⅳ-10・図版9)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出した。

覆 土 樽前dテフラが上位に堆積する。風化した恵庭aテフラがその下層の覆土に混ざる。

遺物出土状況 遺物は19点出土し、1点出土したI群b類は廃棄後の窪みに混入したものであろう。槍先の基部片、つまみ付きナイフの上部片、角柱状の凹み石が出土している。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

H-13 (図Ⅳ-11・図版10)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出した。

覆 土 樽前dテフラが上位に堆積する。風化した恵庭aテフラがその下層の覆土に混ざる。

遺物出土状況 遺物は27点出土し、うち土器は4点。縦長剥片素材転用の削器が出土している。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

H-14 (図Ⅳ-11・図版10)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出した。

覆 土 樽前dテフラが上位に堆積する。風化した恵庭aテフラがその下層の覆土に混ざる。

遺物出土状況 遺物は石器のみ1点出土。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

H-15 (図Ⅳ-11・図版10)

確認調査 IV層上面において樽前dテフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出

した。

覆 土 樽前 d テフラが上位に堆積する。風化した恵庭 a テフラがその下層の覆土に混ざる。

遺物出土状況 遺物は石器のみ 18 点出土。石器のみ 18 点出土した。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

H-16 (図 IV-11・図版 10)

確認調査 IV 層上面において樽前 d テフラの砂状の粒子が混ざる暗褐色土の楕円形の拡がりを検出した。

覆 土 樽前 d テフラが上位に堆積する。風化した恵庭 a テフラがその下層の覆土に混ざる。

遺物出土状況 石器のみ 112 点出土した。石斧が 11 本纏まって出土し、石斧に伴って晩式期の特徴的な石器の磨製刃器が 3 点出土し、それぞれに刃部の摩耗の状況が違う。また、勾玉状小石や円盤状すり石（石鋸的な）に台石が出土している。これらはセット関係にあると推察される。

時 期 縄文時代早期中葉に属する。

P-1 (図 IV-12.13・図版 11)

特 徴 IV 層上面で黒色土の円形の広がりを確認した。半割した結果、断面フラスコ状を呈する。覆土上層では有孔礫が中央付近で出土し、下層では台石下から中茶路式土器片が出土した。出土状況から墓と考えられる。

時 期 樽前 d テフラは覆土に層状に堆積しないため、テフラ降下後の遺構である。縄文時代早期後葉に属する。

P-2 (図 IV-12.13・図版 11)

特 徴 B 調の壁面で確認した。土坑の西側部分は B 調により床面から 15cm 程の深度に破壊されている。上部が耕作により削平されているが、周辺の状況からフラスコ状を呈する土坑であったと考えられる。

時 期 樽前 d テフラ降下後の遺構と推測される。縄文時代早期後葉に属する。

P-3 (図 IV-12.13・図版 11)

特 徴 IV 層上面で黒色土の円形の広がりを確認した。半割した結果、断面フラスコ状を呈する。覆土から炭化したクルミ片が出土した。貯蔵穴を墓に転用した可能性がある。

時 期 樽前 d テフラは覆土に層状に堆積しないため、テフラ降下後の遺構である。縄文時代早期後葉に属する。

P-4 (図 IV-12.13・図版 12)

特 徴 B 調断面で確認した。土坑を半割した結果、断面フラスコ状を呈する。P-3 と同様に炭化したクルミ片が出土した。上層と下層で中茶路式の個体が押しつぶされた状態で出土した。西側部分は、B 調により床面から 15cm 程の深度に破壊されている。

時 期 樽前 d テフラは覆土に層状に堆積しないため、テフラ降下後の遺構である。縄文時代早期後葉に属する。

P-5 (図 IV-12.13・図版 12)

特 徴 H-7 の南西部分に重複して構築される。半割した結果、断面フラスコ状を呈する。

時 期 樽前 d テフラは覆土に層状に堆積しないため、テフラ降下後の遺構である。縄文時代早期後葉に属する。

P-6 (図 IV-12.13・図版 12)

特 徴 H-6 調査トレンチにて確認された。遺構の断面はフラスコ状を呈する。

時期 樽前 d テフラは覆土に層状に堆積しないため、テフラ降下後の遺構である。縄文時代早期後葉に属する。

P-7 (図IV-14.15・図版12)

特徴 IV層上面で円環状の黒色土の中央に橙色の樽前 d テフラの円形の広がりを確認した。覆土の上位に樽前 d テフラが堆積する。覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

P-8 (図IV-14.15・図版12)

特徴 IV層上面で橙色円環状の樽前 d テフラとその中央に黒色土の円形の纏まりを確認した。覆土に樽前 d テフラが堆積する。下位の覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

P-9 (図IV-14.15・図版13)

特徴 IV層上面で円環状黒色土の中央に橙色の樽前 d テフラの円形の纏まりを確認した。覆土の上位に樽前 d テフラが堆積する。覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

P-10 (図IV-14.15・図版13)

特徴 IV層上面で円環状黒色土の中央に橙色の樽前 d テフラの円形の纏まりを確認した。覆土の上位に樽前 d テフラが堆積する。覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

P-11 (図IV-14.15・図版13)

特徴 IV層上面で円環状黒色土の中央に橙色の樽前 d テフラの円形の纏まりを確認した。覆土の上位に樽前 d テフラが堆積する。覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

P-12 (図IV-14.15・図版13)

特徴 IV層上面で橙色円環状の樽前 d テフラとその中央に黒色土の円形の纏まりを確認した。覆土に樽前 d テフラが堆積する。下位の覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

P-13 (図IV-14.16・図版13)

特徴 IV層上面で円環状黒色土の中央に橙色の樽前 d テフラの円形の纏まりを確認した。覆土の上位に樽前 d テフラが堆積する。覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。H-5 出土の晩式の底部破片が接合した。

時期 縄文時代早期中葉に属する。

P-14 (図IV-14.16・図版13)

特徴 IV層上面で円環状黒色土の中央に橙色の樽前 d テフラの円形の纏まりを確認した。覆土の上位に樽前 d テフラが堆積する。覆土には恵庭 a テフラの風化した砂粒が混じる。

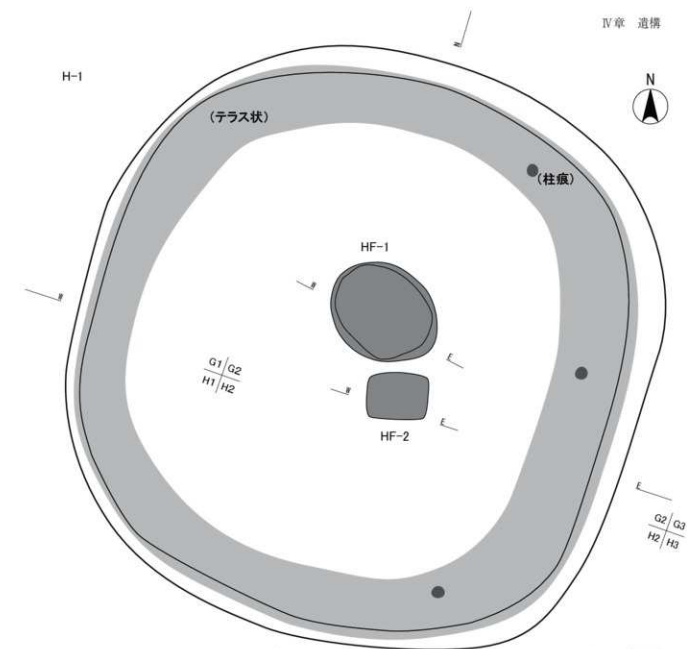
時期 縄文時代早期中葉に属する。

F-1 (図IV-14.16・口絵4)

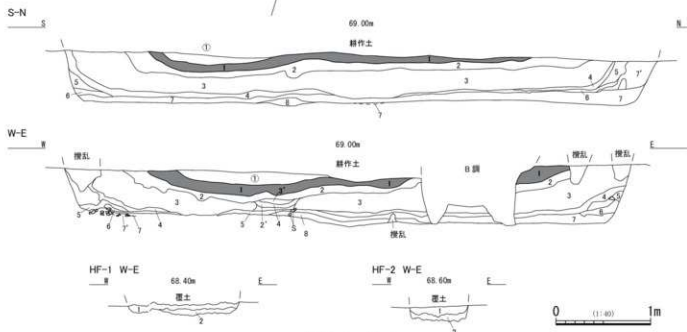
特徴 H-6 検出時、耕作土を除去しローム（恵庭 a テフラ）を下げ始めた時に焼土を発見した。周囲から遺物は出土しなかった。

時期・分析 炉内炭化材の年代測定の結果、 ^{14}C 年代測定値 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正) : $12082 \pm 36\text{yrBp}$ 。縄文時代草創期に相当する数値が得られた。

(富永)

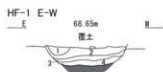
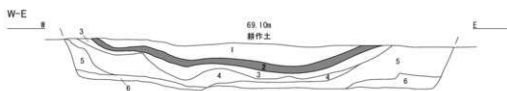
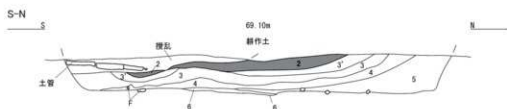
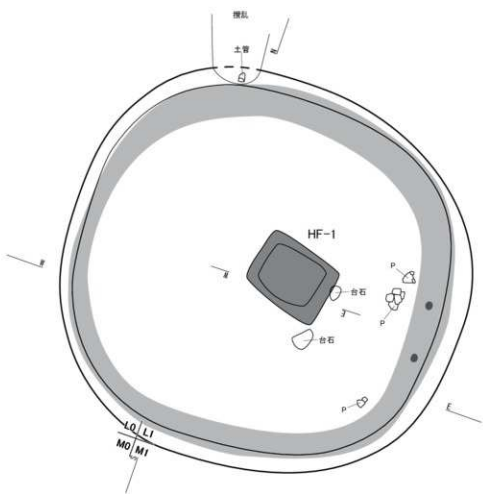


※テラス範囲は推定復元



図IV-1 H-1

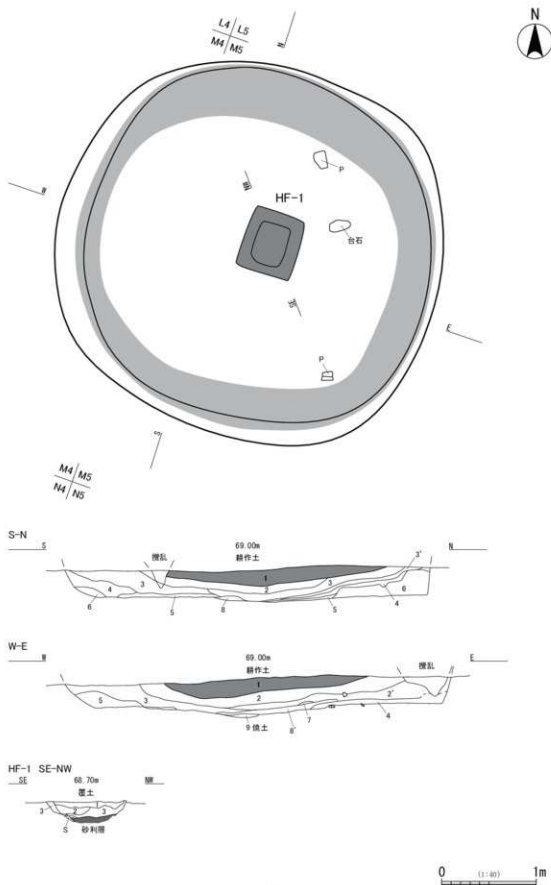
H-3



0 (1:90) 1m

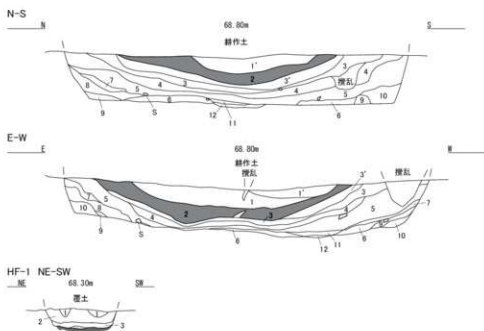
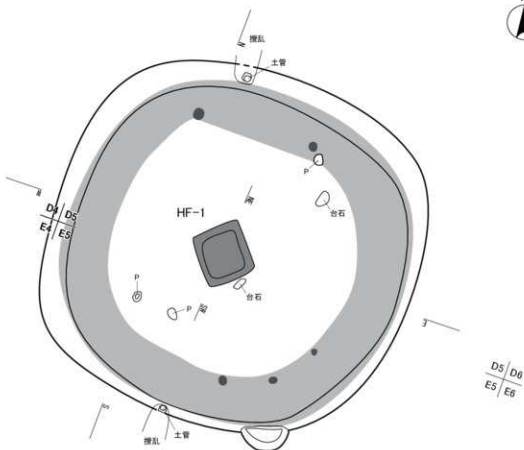
図IV-3 H-3

H-4



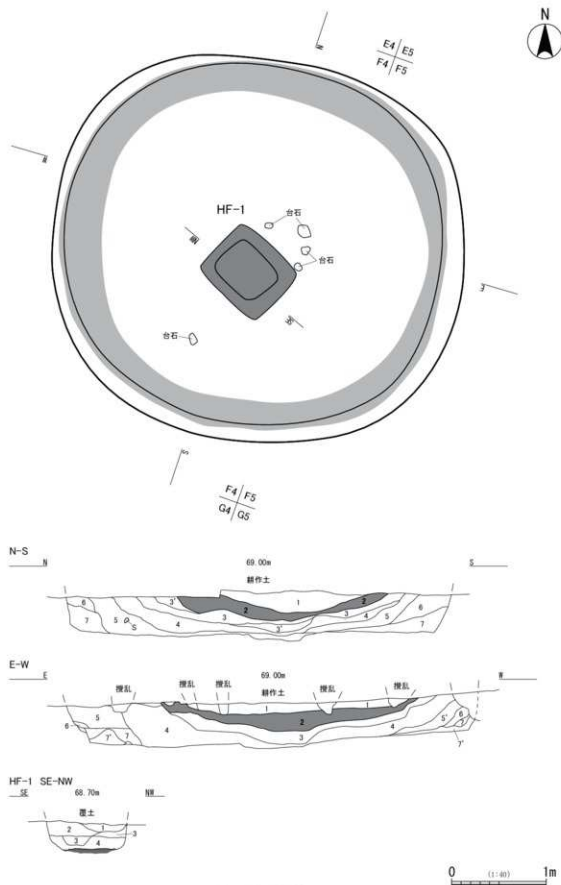
図IV-4 H-4

H-5



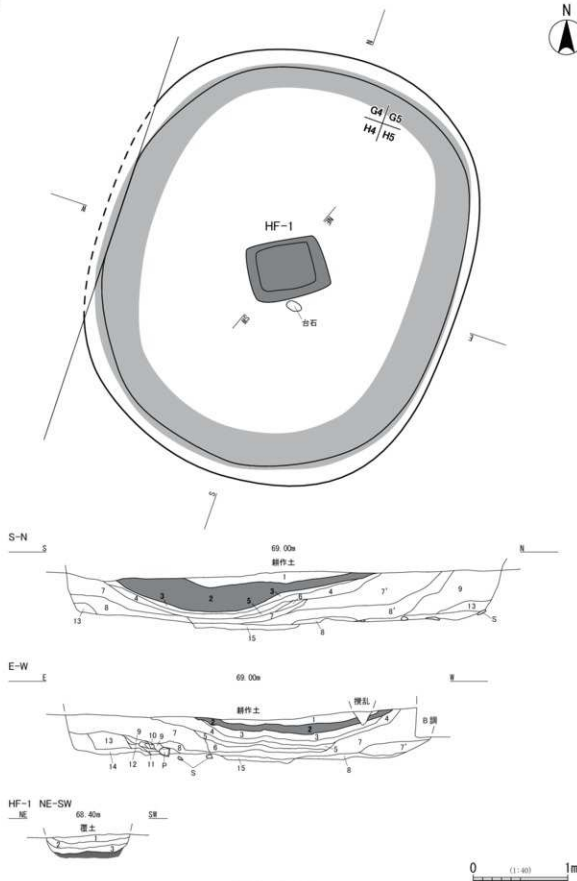
図IV-5 H-5

H-6



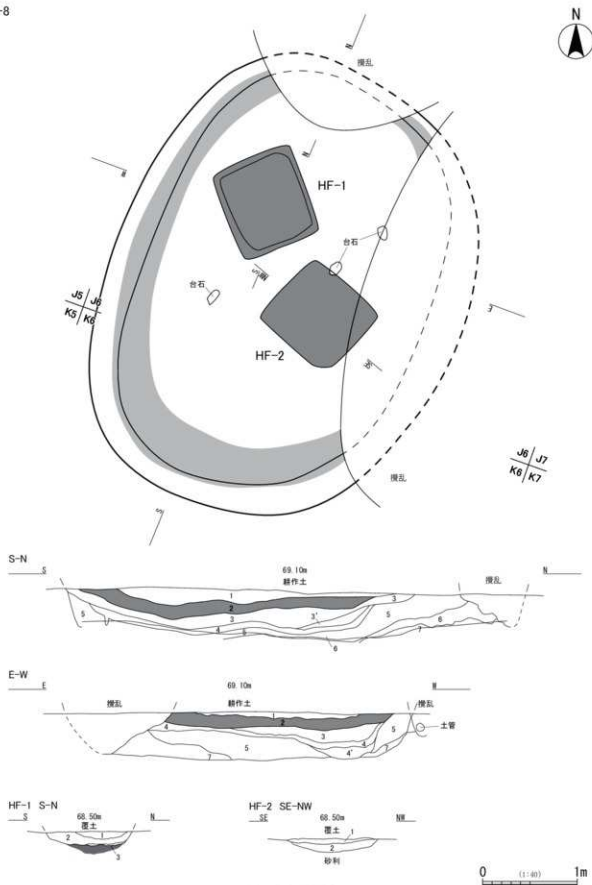
図IV-6 H-6

H-7



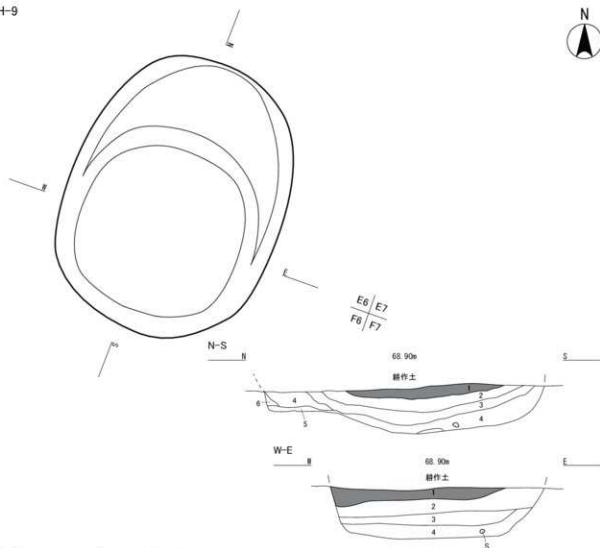
図IV-7 H-7

H-8

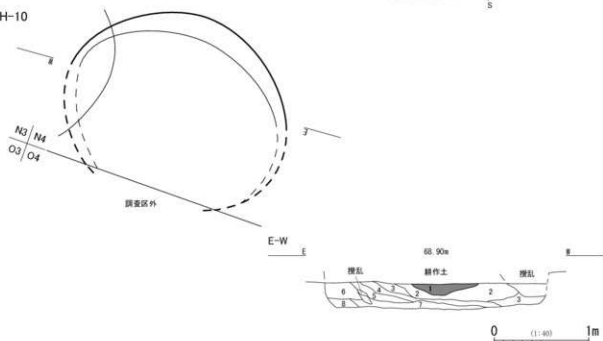


図Ⅳ-8 H-8

H-9



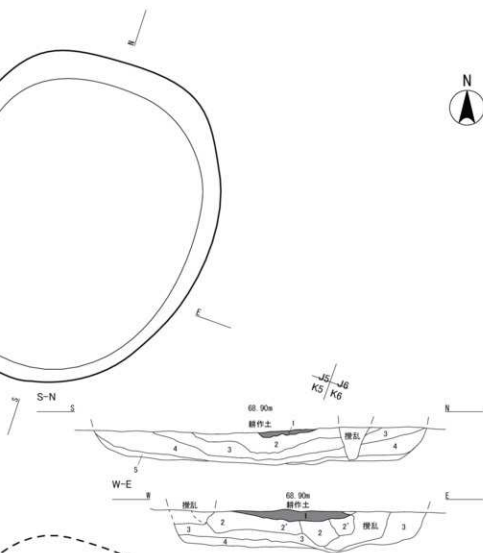
H-10



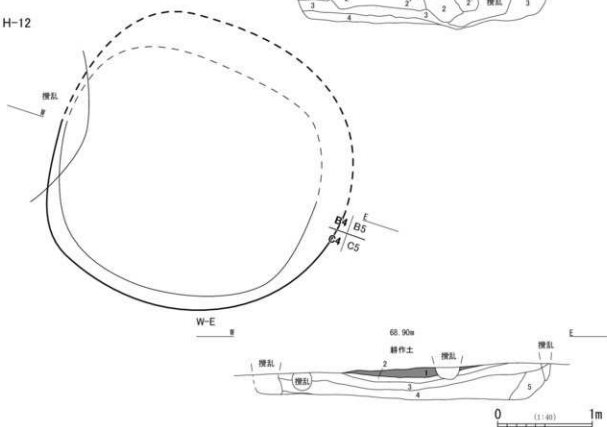
図IV-9 H-9・10

0 1m
(1:40)

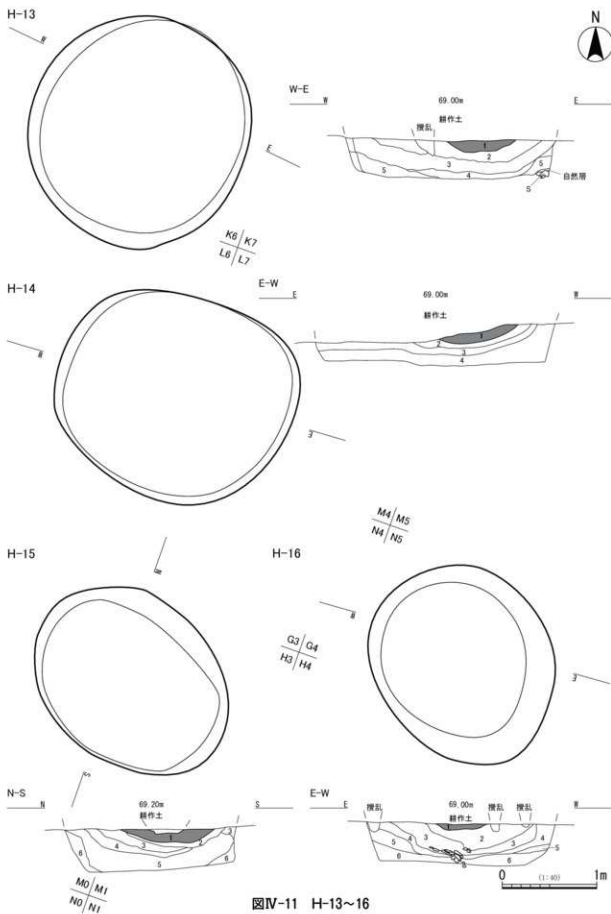
H-11



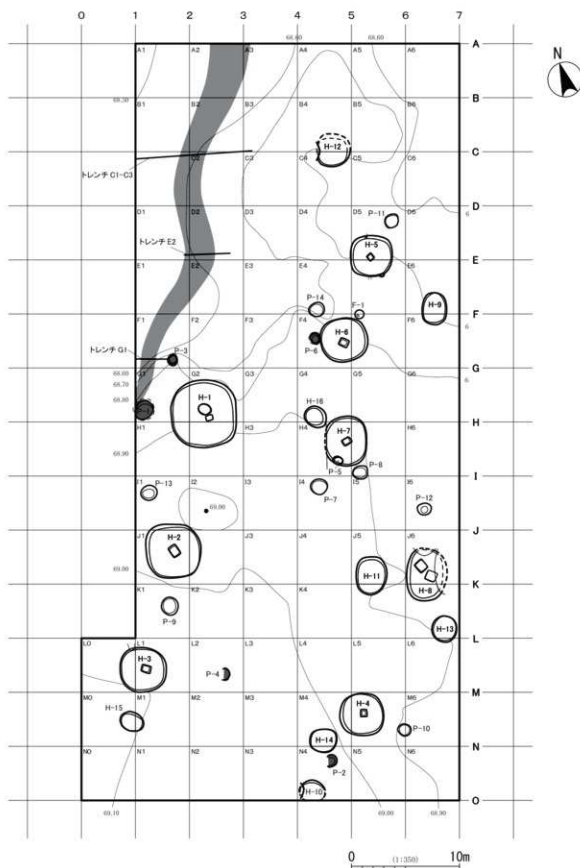
H-12



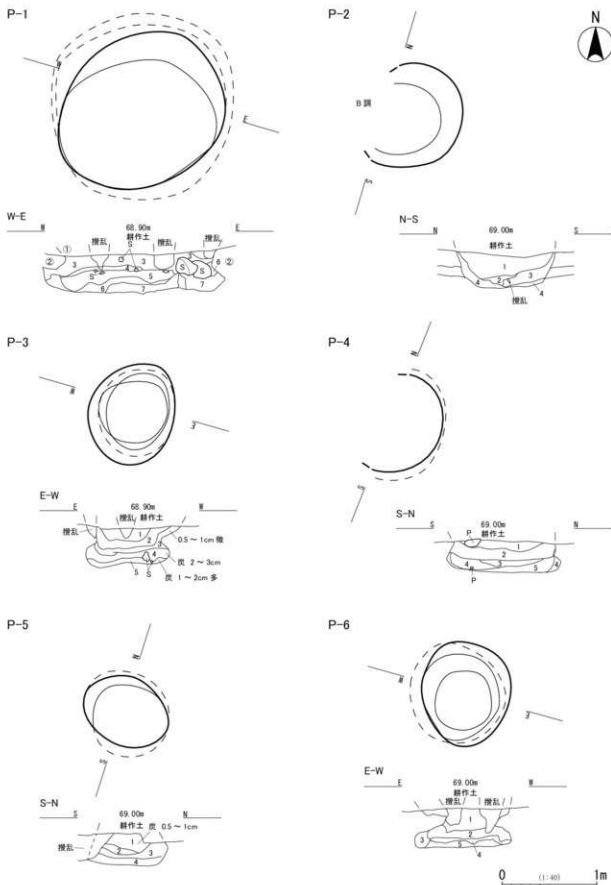
図IV-10 H-11・12



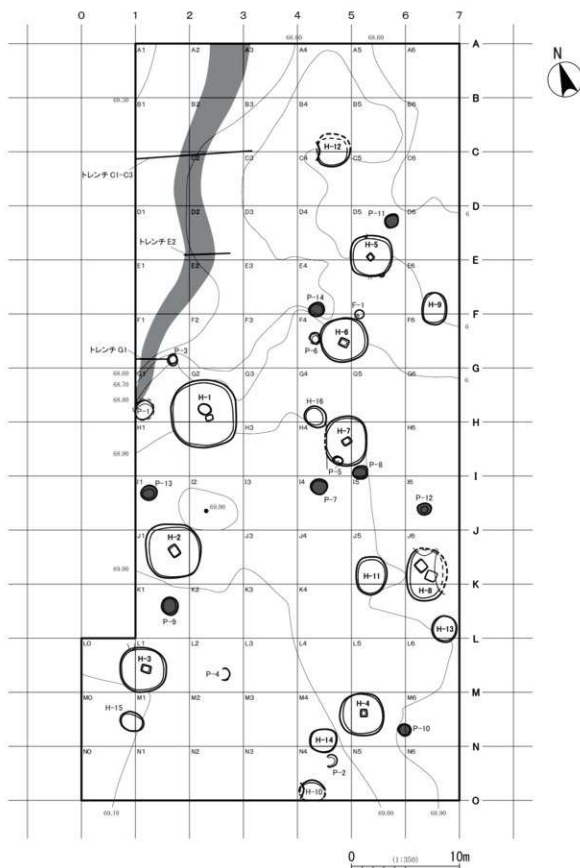
図IV-11 H-13~16



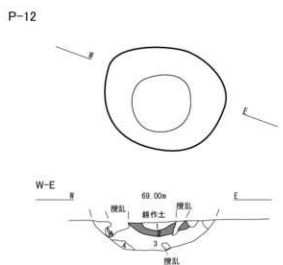
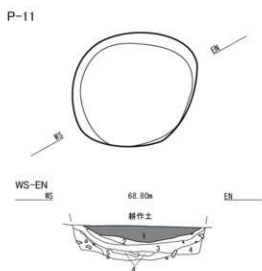
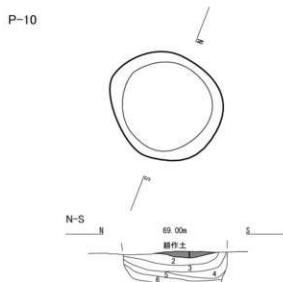
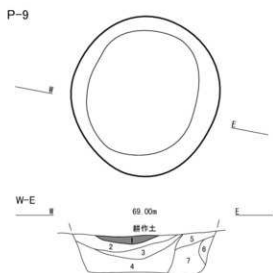
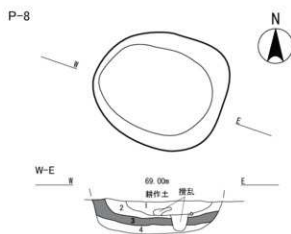
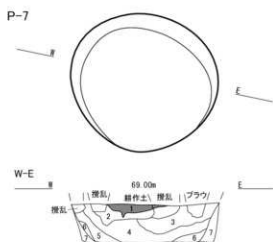
図IV-12 中茶路式土器期の土坑



図IV-13 P-1~6

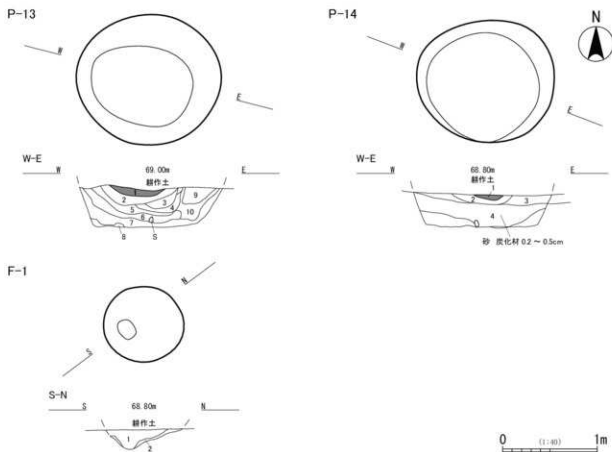


図IV-14 晩式土器期の土坑



0 (1:80) 1m

図IV-15 P-7~12



図IV-16 P-13・14・F-1

表Ⅳ-1 遺構規模一覧表（*遺構確認面はⅣ層上面のブラウ耕作層「厚さ0.15~0.1m程」中のため埋乱層として除外した）

調査区	遺構番号	調査区	位置	北辺長(土・主軸)	北辺長(土・子軸)	惣長(土・主軸)	惣長(土・子軸)	深さ	歩数	歩の長	歩の短	等分	歩数	歩の長	歩の短	層高
縄文時代早期前葉	Ⅱ-1	6-11-2	縄文方溝状	6.28	5.80	4.00	3.52	1.52	0.52	0.64	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.12
	Ⅱ-2	1-1-1-2	縄文方溝状	5.10	4.64	3.90	4.52	1.52	0.48	0.64	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	-
	Ⅱ-3	1-30-0-1	縄文方溝状	4.32	3.82	4.16	3.80	0.48	0.48	0.64	0.68	0.30	-	-	-	-
	Ⅱ-4	Ⅱ-4-5	縄文方溝状	4.12	3.72	3.82	3.64	0.36	0.44	0.72	0.64	0.68	-	-	-	-
	Ⅱ-5	Ⅱ-5-3	縄文方溝状	3.88	3.52	3.80	3.40	0.52	0.60	0.60	0.52	0.30	-	-	-	-
	Ⅱ-6	Ⅱ-6-3	縄文方溝状	4.40	4.00	4.04	3.64	0.48	0.44	0.64	0.44	0.30	-	-	-	-
	Ⅱ-7	6-10-1-3	縄文円形溝状	4.64	4.24	(3.88)	(3.68)	0.44	0.44	0.60	0.60	0.30	-	-	-	-
	Ⅱ-8	Ⅱ-8-0	縄文円形溝状	(4.80)	4.52	(3.60)	(3.60)	0.50	0.44	1.04	0.88	0.12	0-2	0.96	0.30	0.12
	Ⅱ-9	Ⅱ-9-0	縄文円形溝状	2.90	2.68	2.52	2.60	0.52	-	-	-	-	-	-	-	縄文時代早期前葉
	Ⅱ-10	Ⅱ-10-1	縄文円形溝状	2.44	2.28	(2.16)	(1.68)	0.28	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-11	Ⅱ-11-5	縄文円形溝状	2.36	2.04	2.84	2.52	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-12	8-7-4	縄文円形溝状	2.80	2.60	(3.64)	(2.52)	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-13	Ⅱ-13-6	縄文円形溝状	2.44	2.14	2.64	2.64	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-14	Ⅱ-14-4	縄文円形溝状	2.56	2.30	2.16	2.08	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-15	Ⅱ-15-1	縄文円形溝状	2.28	2.00	1.60	1.44	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-
縄文時代早期中葉	Ⅱ-16	6-0-1	縄文円形溝状	1.96	1.68	1.88	1.36	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	-
	Ⅱ-17	Ⅱ-17-3	縄文方溝状	1.84	1.96	1.52	1.88	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	-
	Ⅱ-18	Ⅱ-18-1	縄文方溝状	1.20	-	1.00	-	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-19	Ⅱ-19-3	縄文方溝状	1.12	0.88	0.80	0.76	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-20	Ⅱ-20-3	縄文方溝状	0.96	1.24	1.00	1.04	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-21	Ⅱ-21-3	縄文方溝状	0.80	0.88	0.76	0.84	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-22	Ⅱ-22-3	縄文方溝状	1.16	1.12	0.80	1.04	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	0.44	-
	Ⅱ-23	Ⅱ-23-3	縄文円形溝状	1.60	-	1.48	-	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-24	Ⅱ-24-5	縄文円形溝状	1.40	-	1.24	-	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-25	Ⅱ-25-3	縄文円形溝状	1.64	-	1.56	-	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-26	Ⅱ-26-6	縄文円形溝状	1.24	-	1.00	-	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-27	Ⅱ-27-11	縄文円形溝状	1.44	-	1.24	-	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-28	Ⅱ-28-11	縄文円形溝状	1.28	-	1.12	-	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-29	Ⅱ-29-6	縄文円形溝状	1.52	-	1.40	-	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-
縄文時代早期中葉	Ⅱ-14	Ⅱ-14-1	縄文円形溝状	1.84	-	1.82	-	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ-16	Ⅱ-16-1	縄文円形溝状	0.84	-	0.84	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
縄文時代早期前葉																

表IV-2 土層注記一覧表

遺構名	層位名	土色	土性区分	粘性 度	堅密 度	層界	土成 主体	備考
H-1	①	Hue10YR 2/3 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	明瞭	黒土	Ta-dを微量に含む
	1	Hue5YR 6/8 褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	Ta-d(粒状)、上部の劣化脱色著しい
	2	Hue10YR 3/4 暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり
	2	Hue10YR 2/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(径0.5~1mm)微量
	3	Hue10YR 6/6 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり
	3	Hue10YR 5/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり
	4	Hue10YR 4/6 褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり(炭化)黒色含む
	5	Hue10YR 5/8 黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり; 粘土
	6	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	炭化粒(径0.5~1cm)微量; 粘土
	7	Hue10YR 3/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(径0.1~0.2cm)少量; 粘土、砂混
	7	Hue10YR 6/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		直下に砂利層(径1~8cm)、一部被熱; 粘土
	8	Hue10YR 6/1 褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)、一部被熱; 粘土
	HF-1-1	Hue5YR 5/3 にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土	焼土粒(0.5~1.0cm)多量主り
	HF-1-2	Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
H-2	1	Hue10YR 5/1 褐灰色	L: 壤土	弱	堅密	明瞭	黒土	Ta-d微量混じり
	1	Hue11YR 5/2 褐灰色	L: 壤土	弱	堅密	明瞭	黒土	Ta-d混じり
	2	Hue10YR 6/5 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	明瞭	黒土	Ta-d微量混じり
	3	Hue5YR 6/8 褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	Ta-d(粒状)
	4	Hue10YR 3/4 暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり
	4	Hue10YR 3/5 暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり
	5	Hue10YR 3/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり
	5	Hue10YR 2/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)少量混じり、一部被熱
	6	Hue10YR 4/6 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)少量混じり; 粘土
	7	Hue10YR 4/7 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)微量混じり; 粘土
	7	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)、遺物含む; 粘土
	8	Hue10YR 4/3 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		ローソ管、小砂含む; 粘土
	HF-1-1	Hue5YR 5/3 にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土	焼土粒(0.5~5.0cm)多量主り
	HF-1-2	Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		耕作土(農業プラウ機層)
H-3	1	Hue10YR 1/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	2	Hue5YR 6/8 褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	Ta-d(粒状)
	3	Hue10YR 5/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 3/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 6/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	5	Hue10YR 7/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)微量混じり、遺物含む
	6	Hue10YR 6/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		; 粘土
	HF-1-1	Hue5YR 5/3 にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土	焼土粒(0.5~5.0cm)多量主り
	HF-1-2	Hue5YR 5/4 にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	HF-1-3	Hue5YR 3/3 暗赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	HF-1-4	Hue2.5YR 4/1 赤灰色	L: 壤土	弱	軟質	不明瞭		
H-4	1	Hue5YR 6/8 褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	火山灰の上部3~4cm炭化が著しく脱色
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	En-a(砂質)微量混じり
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)微量混じり
	3	Hue10YR 5/2 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)微量混じり
	3	Hue10YR 6/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)微量混じり
	4	Hue10YR 6/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		遺物含む
	5	Hue10YR 6/2 灰黄褐色	L: 壤土	中	堅密	不明瞭		En-a(砂質)微量混じり、遺物含む; 粘土
	6	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)微量混じり; 粘土
	7	Hue10YR 2/3 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.1~0.3cm)少量含む; 粘土
	8	Hue10YR 2/3 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.1~0.3cm)少量、被熱する; 粘土
	8	Hue5YR 6/6 褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		焼土粒(0.2~0.5cm)微量主り
	HF-1-1	Hue5YR 5/3 にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土	焼土粒(0.5~1.0cm)多量主り

遺構名	層位名	土色	土性区分	粘性 度	堅密 度	層界	土主 主体	備考
H-4	HF-1-2	Hue5YR 5/4	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	遺物含む(土器片・フレイク)
	HF-1-3	Hue5YR 4/2	灰褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
H-5	1	Hue10YR 2/2	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	耕作によりTa-d混じり
	1*	Hue10YR 6/1	褐灰色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	劣化したTa-d
	2	Hue5YR 6/8	橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d
	3	Hue10YR 2/2	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土
	3*	Hue10YR 2/1	黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土
	4	Hue10YR 3/1	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質)微量混じり
	5	Hue10YR 5/6	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
	6	Hue10YR 4/4	褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	炭化粒(0.2~0.5cm)微量含む; 粘土
	7	Hue10YR 4/2	灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土
	8	Hue10YR 3/3	暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	: 粘土
	9	Hue10YR 3/2	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土
	10	Hue10YR 4/4	褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	: 粘土
H-6	11	Hue10YR 5/6	黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	砂利の覆土
	12	Hue10YR 5/6	黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	砂利の覆土
	HF-1-1	Hue5YR 5/3	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土粒(0.5~1.0cm)多量まじり
	HF-1-2	Hue5YR 5/4	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	炭化粒(0.2~0.5cm)微量含む
	HF-1-3	Hue5YR 5/4	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	砂利少量混じり
	1	Hue10YR 1/1	黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	耕作によりTa-d微量混じり
	2	Hue5YR 6/8	橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d
	3	Hue10YR 3/3	暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土
	3*	Hue10YR 3/2	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
	4	Hue10YR 5/3	にぶい黄褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質), 砂利(2~8cm)微量含む
	5	Hue10YR 5/6	黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	炭化粒(0.1~0.3cm)少量含む
	5*	Hue10YR 5/4	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土混じり
H-7	6	Hue10YR 4/6	褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
	7	Hue10YR 6/6	明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質)微量混じり; 粘土
	7*	Hue10YR 7/3	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(粗粒砂質)少量混じり; 粘土
	HF-1-1	Hue5YR 5/3	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土粒(0.5~1.0cm)多量まじり
	HF-1-2	Hue5YR 5/4	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
	HF-1-3	Hue5YR 6/6	橙色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土
	HF-1-4	Hue5YR 5/4	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	砂利少量混じり
	1	Hue10YR 2/1	黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土
	2	Hue5YR 6/8	橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d
	3	Hue10YR 6/3	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	炭化粒(0.2~0.4cm)微量含む
	4	Hue10YR 3/3	暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質)微量混じり
	5	Hue10YR 5/3	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質)
H-8	6	Hue10YR 2/2	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質)微量混じり
	7	Hue10YR 6/4	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質)
	7*	Hue10YR 4/2	灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土
	8	Hue10YR 3/4	暗褐色	L: 壤土	中	堅密	不明瞭	炭化粒(0.2~0.5cm)微量混じり; 粘土
	8*	Hue10YR 3/4	暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	炭化粒(0.1~0.2cm)微量含む; 粘土
	9	Hue10YR 5/4	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	ロームと黒土の互層、遺物含む
	10	Hue10YR 7/3	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土とEn-aの互層
	11	Hue10YR 3/3	暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
	12	Hue10YR 5/3	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	炭化粒(0.2~0.4cm)微量含む
	13	Hue10YR 7/4	にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	: 粘土
	14	Hue10YR 4/2	灰黄褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	En-a(砂質); 粘土
	15	Hue10YR 2/3	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
	HF-1-1	Hue5YR 5/3	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土粒(0.5~1.0cm)多量まじり
H-8	HF-1-2	Hue5YR 5/4	にぶい赤褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	
	HF-1-3	Hue5YR 4/2	灰褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	砂利少量混じり
H-8	1	Hue10YR 3/1	黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-dを微量に含む

遺構名	層位名	土色	土性区分	粘性 度	堅密 度	層厚	土成 主体	備考
H-8	2	Hue5YR 6/8 橙色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		上部5~6cm風化が著しく脱色(10YR4/6)
	3	Hue10YR 5/6 黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3*	Hue10YR 5/6 黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		ロームがブロック状に混ざる
	4	Hue10YR 3/3 暗褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4*	Hue10YR 3/3 暗褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.3~1.0cm)微量含む
	5	Hue10YR 4/4 褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		粘土
	6	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.5~1.5cm)微量含む:粘土
	7	Hue10YR 6/1 褐灰色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質):粘土
	HF-1-1	Hue5YR 5/3 にがい赤褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	焼土	焼土粒(0.5~1.0cm)多量まじり
	HF-1-2	Hue5YR 5/4 にがい赤褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		
H-9	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	耕作土(農業プラウ機痕跡), Ta-d微量混じり
	2	Hue10YR 2/3 黒褐色	L:壤土	弱	軟	不明瞭		Ta-d微量混じり
	3	Hue10YR 5/4 にがい黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(径0.5~1cm)微量
	4	Hue10YR 7/2 にがい黄褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
	5	Hue10YR 6/6 明黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		
	6	Hue10YR 5/6 黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		砂(En-a)多量、礫(径0.8~4cm)含む
	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	Ta-d(粒状)
	2	Hue10YR 6/6 明黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(径1~2cm)微量
	3	Hue10YR 1/2 黒色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 2/2 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	小礫(径0.5cm)僅かに含む
H-10	5	Hue10YR 5/4 にがい黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		
	6	Hue10YR 6/4 褐灰色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)、小礫(径0.5cm)僅かに含む
	7	Hue10YR 4/1 褐灰色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		小礫(径0.5~1cm)僅かに含む
	8	Hue10YR 4/1 褐灰色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		砂利を含む
	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	Ta-d(粒状)
	2	Hue10YR 2/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	炭化粒(0.1~0.3cm)微量含む
	2*	Hue10YR 2/2 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 4/3 にがい黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)微量混じり
	4	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)、炭化粒(0.3~0.5cm)少量
	5	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		小礫(径0.5~1cm)僅かに含む
H-11	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	上部5~6cm風化が著しく脱色(10YR4/6)
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.2~0.5cm)多量含む
	4	Hue10YR 7/6 明黄褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	上部5~6cm風化が著しく脱色(10YR4/6)
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.2~0.5cm)多量含む
	4	Hue10YR 6/8 明黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
	5	Hue10YR 7/6 明黄褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
	6	Hue10YR 2/3 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
H-12	1	Hue10YR 8/4 浅黄褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	明瞭	Ta-d	上部5~6cm風化が著しく脱色(10YR4/6)
	2	Hue10YR 6/3 にがい黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		大半がプラウ(耕作)により削られている
	3	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		上部プラウにより削られる
	4	Hue10YR 5/3 にがい黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		小礫(径0.5~1cm)僅かに含む
	1	Hue10YR 8/4 浅黄褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	明瞭	Ta-d	上部5~6cm風化が著しく脱色(10YR4/6)
	2	Hue10YR 2/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.2~0.3cm)少量含む
	4	Hue10YR 3/4 暗褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
	5	Hue10YR 6/6 明黄褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		
	6	Hue10YR 5/2 灰黄褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.2~0.3cm)少量含む
H-13	1	Hue10YR 3/4 暗褐色	SL:砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	Ta-dが微量混じる
	3	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	5	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	6	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	7	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	8	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	9	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	10	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
H-14	1	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	5	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	6	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	7	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	8	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	9	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	10	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
H-15	1	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	5	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	6	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	7	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	8	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	9	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	10	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
H-16	1	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	5	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	6	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	7	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	8	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	9	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	10	Hue10YR 3/1 黒褐色	L:壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	

遺構名	層位名	土色	土性区分	粘性 度	堅密 度	層界	土成 主体	備考
H-16	2	Hue10YR 6/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	3	Hue10YR 5/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量, 炭化粒(0.3~0.5cm) 微量
	4	Hue10YR 3/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	5	Hue10YR 5/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 少量, 炭化粒(0.3~1.0cm) 微量
	6	Hue10YR 3/3 暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
P-1	①	Hue10YR 1.7/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	明瞭	耕作土	耕作土(現代のプラウによる擾乱)
	②	Hue10YR 7/8 黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 5/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		ローム粒がブロック状に混ざる
	4	Hue10YR 2/3 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	黒土がブロック状に混ざる
	5	Hue10YR 4/4 褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		ローム粒がブロック状に混ざる
	6	Hue10YR 5/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	7	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	Ta-dが微量混じる
P-2	1	Hue10YR 7/6 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質), 炭化粒(0.5~1.0cm) 微量含む
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	炭化粒(0.1~0.2cm) 微量含む
	3	Hue10YR 6/6 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 4/6 褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 少量混じり
P-3	1	Hue10YR 3/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	3	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 3/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量, 炭化粒(0.2~0.3cm) 微量
	5	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.1~0.3cm) 多量混じり
P-4	1	Hue10YR 7/6 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		ブロック状のローム粒が混じる
	2	Hue10YR 2/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	Ta-dが混じる
	3	Hue10YR 2/3 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 6/6 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		黒土がブロック状に混じる
	5	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		ローム粒がブロック状に混ざる
P-5	1	Hue10YR 2/3 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.3~0.5cm) 微量含む
	2	Hue10YR 5/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 4/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 3/3 暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		黒土がブロック状に混じる
	5	Hue10YR 1.7/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
P-6	1	Hue10YR 3/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		黒土がブロック状に混じる
	2	Hue10YR 4/1 褐灰色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 6/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		黒土がブロック状に混じる
	5	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	層の上部は耕作の擾乱を受ける
P-7	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	層の上部は耕作の擾乱を受ける
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	En-a(砂質) 微量混じり
	3	Hue10YR 7/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 少量混じり
	4	Hue10YR 6/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり, 炭化粒(0.3cm) 微量
	5	Hue10YR 4/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 少量混じり
	6	Hue10YR 4/1 褐灰色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	炭化粒(0.2~0.3cm) 少量含む
	7	Hue10YR 5/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		支筋を含む?
P-8	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	層の上部は耕作の擾乱を受ける
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 5/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.2~0.3cm) 微量含む
P-9	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	明瞭	Ta-d	層の上部は耕作の擾乱を受ける
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 5/3 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		炭化粒(0.2~0.3cm) 微量含む
	5	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	6	Hue10YR 5/4 にぶい黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	7	Hue10YR 4/1 褐灰色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
P-10	1	Hue10YR 8/4 浅黄褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	明瞭	Ta-d	層の上部は耕作の擾乱を受ける

遺構名	層位名	土色	土性区分	粘性 度	堅密 度	層界	土成 主体	備考
P-10	2	Hue10YR 4/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	3	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 2/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	5	Hue10YR 5/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	6	Hue10YR 3/3 暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 混じり
P-11	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	上部5~6cm風化が著しく脱色(10YR4/6)
	2	Hue10YR 4/4 褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 6/6 明黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		黒土がブロック状に少量混ざる
	5	Hue10YR 4/1 灰褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		黒土がブロック状に微量混ざる
P-12	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	上部5~6cm風化が著しく脱色(10YR4/6)
	2	Hue10YR 6/3 に近い黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 7/2 に近い黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)、炭化粒(0.2~1.0cm) 微量含む
	4	Hue10YR 7/1 灰白色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)、炭化粒(0.2~1.0cm) 多量含む
	5	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	層の上部は耕作の擾乱を受ける
P-13	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	
	2	Hue10YR 2/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 6/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 3/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	5	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	6	Hue10YR 5/3 に近い黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	7	Hue10YR 5/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	8	Hue10YR 5/4 に近い黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	9	Hue10YR 4/1 褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	10	Hue10YR 3/4 暗褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
P-14	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	層の上部は耕作の擾乱を受ける
	2	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	3	Hue10YR 7/3 に近い黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 微量混じり
	4	Hue10YR 4/4 褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質) 少量、炭化粒(0.2~1.0cm) 微量
F-1	1	Hue2.5YR 4/4 に近い赤褐色	L: 壤土	弱	軟質	不明瞭		炭化粒(0.5~2.0cm) 微量含む
	2	Hue2.5YR 4/1 赤灰色	L: 壤土	弱	軟質	不明瞭		
沢C1 ~3	1	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	Ta-d(粒状)、耕作土(農業プラウ攪乱層)
	2	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	3	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 6/6 黄褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)
	5	Hue10YR 3/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	6	Hue10YR 5/4 に近い黄褐色	L: 壤土	中	堅密	不明瞭		縦層(土石流?) En-a混じり
沢E2ト レンチ	1	Hue10YR 2/3 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		Ta-dを微量に含む
	2	Hue5YR 6/8 橙色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭	Ta-d	Ta-d(粒状)
	3	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	4	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	5	Hue10YR 6/6 黄褐色	SL: 砂壤土	弱	堅密	不明瞭		En-a(砂質)、礫多量
沢G1ト レンチ	1	Hue10YR 3/1 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	耕作土(農業プラウ攪乱層)
	2	Hue10YR 2/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	3	Hue10YR 1/1 黒色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭	黒土	
	4	Hue10YR 2/2 黒褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	5	Hue10YR 4/3 に近い黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		
	6	Hue10YR 5/2 灰黄褐色	L: 壤土	弱	堅密	不明瞭		

V章 遺物

1. 遺構の遺物 (図V-1～15・図版15～19)

遺構の遺物は、堅穴住居跡出土の遺物取り上げの際、落ち窪みに上へ堆積する遺構上面の耕作土(耕作層)の爪先の深度が最近のものは80cm程に及ぶため、遺構上面は10cm深いところでは15cm程耕されていた、前章の堅穴土層図ではこの攪乱層を図中より除外した)や、遺構中央に堆積する黒色土(自然堆積)出土のものを覆土上層で取り上げ、年代の鍵層となる樽前dテフラ層(自然堆積)よりも下層の出土遺物を「覆土中層」、さらに下層を「覆土下層」、生活面となる、煤で汚れ黒色化した(煤化)層の出土物を「床面直上」もしくは「床面」、貼り床中の遺物を「床覆土」とし、最下層となる砂利層直上の構築面出土のものを「床下」出土のものとして取り上げた。また、I群a類の土器は出土時より大変脆くなっていたので、水洗は、表面に吸着したロームを軽く落とす程度に留め、ナチュラルコートに浸透させ強化してから注記・接合作業を行った。そのため、内面の付着物(煮炊きのお焦げ)が残存する状態である。

H-1出土の石器1は彫器。2、3はRフレイク、4～6は縦長剥片、7はたたき石、8はすり石、9は台石、10は凹石。凹石の窪みは人為的なものではなく、貝(300万年前帯広平野が海だった時代にニオガイ・カメガイ、イシマテ系の貝)が石に寄生し空けたものである。遺跡の地山を形成する海成層から出土するので、縄文人が発見して持ち込んだものであろう。

H-2出土の土器1～3はI群a類。1.2は底部片で、1・2は外方にやや張る。1の外側底面は指頭の圧で輪郭が波状となっている。長楕円形の底部と思われる。3は復元出来た個体で他遺構との接合関係はない。

石器4は縦長剥片、本遺跡では細石刃核等の旧石器時代の遺物は出土していないので、細い石刃の破片と思われる。5～8は石鏃、砲弾形または五角形を呈する。7は側縁が内側に湾曲気味になる魚形に近いもので、日高町ケノマイ2遺跡(日高町 2015)で類するものが出土している。9～12は石鏃。13～15は削器。16は縦長剥片。17たたき石、18砥石。19・20は台石。21～23は軽石製で浮子として持ち込まれたものと考えた。24の四角形小石と25・26の勾玉状小石は遺跡内で類するものが複数出土するため石製品として掲載した。

H-3出土の土器1～5はI群a類。1は上面観で隅丸方形。2のミニチュア土器は八千代A遺跡や清水町東松沢遺跡でも類するものが出土している。3～5は底部片で内面に指圧痕、3は外側底面も指圧が残る。5はP-13の破片と接合し、今回唯一の遺構間接合となった。石器6～8は石鏃。二等辺三角形平基を呈し、基部は内湾する。9はRフレイク、10はナイフ形石器片、11～13は削器、12は原石面が残る。14・15は縦長剥片、16はたたき石、17・18はすり石。19は台石。20は浮子状の軽石製品である。

H-4出土の土器1～6はI群a類。1は上面観で口縁部と底部が長楕円形の形状を呈する。胴部は縦位に条痕文が施される。2は上面と下面が長楕円形の器形を呈する土器。石器7は石刃側縁に挟りをいれて摘み部分を削出したつまみ付ナイフ。8は彫器、9は削器、10はすり石、11は円錐形状のたたき石、12は三角形に割れた砥石片、13は台石。

H-5出土の土器1～3はI群a類。3の底部内面には指圧痕(口絵2下図)。4はH-4-2に類して外面に縦位の条痕文。下面の底部が長楕円形を呈する。石器5～7は石鏃。正三角形平基を呈し、基部は湾曲する。7は片側が直線気味で、反対側が外方に湾曲する。8は彫器、9は石刃の端部を加工した搔器、10は削器、11は先端が鋭角になる石刃、12はたたき石片、13はヘラ状の石器である。

H-6出土の土器1～2はI群a類。1の底部内面には指圧痕、外側底面はミガキ状。胴部外方は縦位の条痕文が施される。2の外側底面には、僅かながらに貝殻殻表の痕跡がみられる。石器3は薄片の縁辺を加

工し五角形に整形している。サイズは4cmを切るが他遺構の石鏃とは趣を異にするので石槍とした。4はつまみ付ナイフ。5は彫器。6は削器。7は石刃。8は石斧片。9はたたき石から転用されたすり石、10は三角形のたたき石、11は台石である。

H-7出土の土器1はI群a類。竹管状の工具(草の茎か)で貫通しない円孔文。石器2・3は石鏃で、2は覆土上層、3は覆土下層の出土で、前述したが覆土上層はTa-dテフラから上層である。2は二等辺三角形を呈し、基部は内湾するが片側が鋭角になる。3は五角形窄扁平基を呈する。4は石鏃、5はRフレイク、6は削器、7は縦長剥片、8はたたき石片、9は三角形の砥石片、10砥石片。11は炉の傍から出土の台石である。

H-8出土の土器1~2はI群a類で、接点が見つからなかったが同一個体である。非常に薄手で、内面に付着物が残る。石器3・4は石鏃。3は床下(砂利層上面)からの出土で、砲弾形長扁平基型を呈する。5は石槍で、H-6-3と同様に五角形を呈するが、基部の両端が外方にやや張り出す。6は搔器、7はRフレイク、8は削器、9は縦長剥片。10は石斧。11はたたき石、12はすり石、13は床面で出土した四角形柱状を呈する台石で、取り上げの際に下からフレイクが出土した。14は砥石兼用の台石。15は四角形状の石製品である。H-2-24に類する形状のもので、縄文人により持ち込まれたものであろう。

次からは、小型堅穴の遺物となる。H-9出土の石器は、1が本遺跡で最大級の厚手の黒曜石剥片。2は球状に近いたたき石である。H-11出土の石器は、1が正三角形基部内湾型の石鏃。2は縦長剥片である。

H-12出土の石器は、1が石槍片で基部のみのもの。2がつまみ付ナイフ片で上部のみのもの。3は四角形柱状を呈する凹石である。H-13出土の石器は、1が縦長剥片。2は凹石である。H-15出土の石器は、1は原石面の残る石刃である。

H-16出土の石器は、磨製石器が一括して出土した。1~11は石斧で9は擦切り手法がみられる。2・4・13・14・15には付着物が残るが、蛇紋岩製の石器に限られるため、土壌の鉄分が吸着しやすい岩質と思われる。12は薄手の円盤状すり石(石鋸の用途か判然としなかった)は石斧と一緒に出土した。13~15は磨製刃器で、千歳市イカベツ2遺跡のH-9でもこれに類する調整の刃器が出土している。特徴としては剥片状の刃部が付けられた中央部分から「抉れ」が進み、3点の中で15が一番摩耗し、研磨しながら利用し続けたことが解る。用途としては抉れの湾曲具合から枝葉の樹皮を剥がす道具であろうか。これも石斧に伴った。16は台石。17は勾玉状小石である、これも石斧に伴ったため有意の石製品とした。

次からは土坑出土の遺物となる。P-3やP-9の土坑からはクルミ殻が炭化した状態で出土しており、H-4から出土した円錐形のたたき石や、多く出土している凹石を用いて殻を粉砕していたと推測される。気候寒暖差の激しい古冠町ではオニグルミの木が多く自生している。池田町池田3遺跡では晩式土器期の土坑P-41からクルミ殻やトネリコ属の木片が出土している(池田町 1994)。日高山脈以東の植物資源としてクルミが多用されていたのだろう。

I群b類(中茶路式)期の土坑群はP-1~6で、P-1からは土器*点、石器*点が出土した。1は石斧片。2・3はすり石。4は砥石、5~7は台石。8は凹石、9は有孔礫である。

P-2の1はたたき石、P-4の出土土器1~4はI群b類。1は口縁部片、2は口縁部の欠損する底部片、3も口縁部が欠損する個体で、意図的に口縁部を打ち欠いて埋葬したものと考えられる。4・5は小型の土器である。いずれも、重層する微隆起線と、充填文に絡条体瓦文で体部全体に施文される。P-6の1は波状の口縁部片である。

P-7~14は晩式土器期の土坑群で、P-13の土器底部がH-3の土器底部H-3-5と接合した。P-9の1は三角形の石製品、P-12の1は三角形に割れたすり石片、2は台石片である。P-13の1は三角形のたたき石。P-14の1は二等辺三角形扁平基の石鏃、2はRフレイク、3は縦長剥片、4はたたき石である。

2. 沢跡の遺物 (図V-15~17・図版14・19)

沢跡からは、土器 42 点と石器 1694 点、合計は 1736 点が出土した。1・2は前期Ⅱ群 a 類。1は口縁部片、2は胴部片である。沢の上流部から流されてきたものと思われる。3は中期後半のⅢ群 b 類。これも上流部から流されて来たものであろう。4~10は石鏃。二等辺三角形形平基部型のもが主体であるが、8・9は基部片側が鋭角になるもので、8は胴部が振れをもつ。11~13は石槍で、13はH-8-5と形状が類する。

14~18は石錐、19~25はつまみ付きナイフ、26は彫器。27・28は削器。29は幅広の剥片、30は削器。31・32は礫石器で断面三角形すり石である。33は円盤状すり石、これは用途的には石鋸のような機能も兼ねていると推測される。34は短軸方向で打ち欠かれた石錐。本遺跡で唯一の出土である。時期は早期初頭から前期に至る間のものか。遺跡の位置が段丘の中程のため、途別川に近い低位付近で石錐が使用されていたのだろう。35は砥石兼用の台石。36は球状の礫。17は円形に窪んだ痕跡の残る凹石である。

3. 包含層の遺物 (図V-17~20・図版20)

包含層からは、土器 99 点と石器 4009 点、合計 4108 点が出土した。剥片石器は 2256 点。磨製石器は 4 点、礫石器は 1739 点。土・石製品は 10 点出土した。

1はトレンチの下層(Ⅳ層中)から出土した。土器底部片と思われる。焼成は良く、薄く硬質である。層位的に時期は早期初頭。剥片石器群の2・3は小型の縦長剥片。4~23は石鏃。4~6は二等辺三角形基部内湾型の石鏃。8は砲弾形型。9~11は正三角形型だが、9は基部内湾。10・11は基部が片側に傾斜する。12~17にかけては二等辺三角形に胴部の振れがみられ、基部が平基のものである。17は側縁片側を軽く調整するのみである。18~22は柳葉形を呈するもの、18は先端部が鋭利に突出する。23は菱形有茎窄狹型(凸基有茎礫とも呼称される)。

24~28は石槍で、いずれも破損している。29~32は石錐。33~35はつまみ付きナイフ、36・37は彫器、38・39・42・43は削器、40・41はナイフ。44・45は石斧片、46は石斧の未成品。47~49はたたき石、50~54はすり石で、50~52は早期の断面三角形すり石。53は北海道式石冠型と思われる。同町日新F遺跡でこれに類する北海道式石冠が出土している。

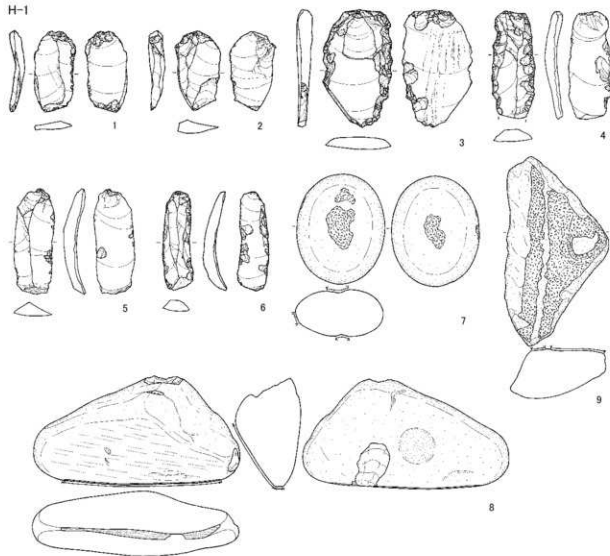
54は球状の土製品。55~63は石製品で、55・56は球状の礫、球状の土製品、球状の礫は石礫もしくは遊具と考え有意の礫とし掲載した。57・58は意図的に割ったと思われる三角形の礫。57は砥石から転用されるか。59~64は有孔礫。

本遺跡では堅穴住居の深さはⅣ層上面から75cm前後のものだったと推測される。表土除去の段階で堅穴周辺には、掘り上げ土は見当たらなかったため、これも削平により消失したと考えられる。土器接合ではH-3とP-26以外の遺構間接合は見られなかった。

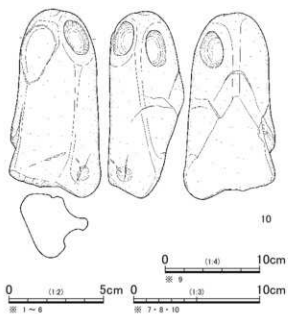
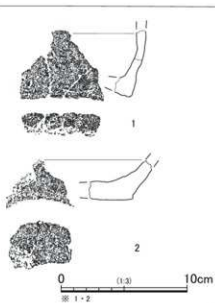
八千代A遺跡の堅穴遺構の密集度と隣接状況から鑑みると、堅穴と堅穴の隙間の空間が気になるが、H-6北側の焼土はⅣ層中位の深さの検出であり、包含層の遺物、土器1と石器2はトレンチ調査中にⅣ層下位から出土したものである。1と2が出土した調査区のL3・J3をⅤ層上面まで掘り下げて最終確認をしたところ、遺構や遺物の広がりには認められなかった(口絵1・図版1下図)。

(富永)

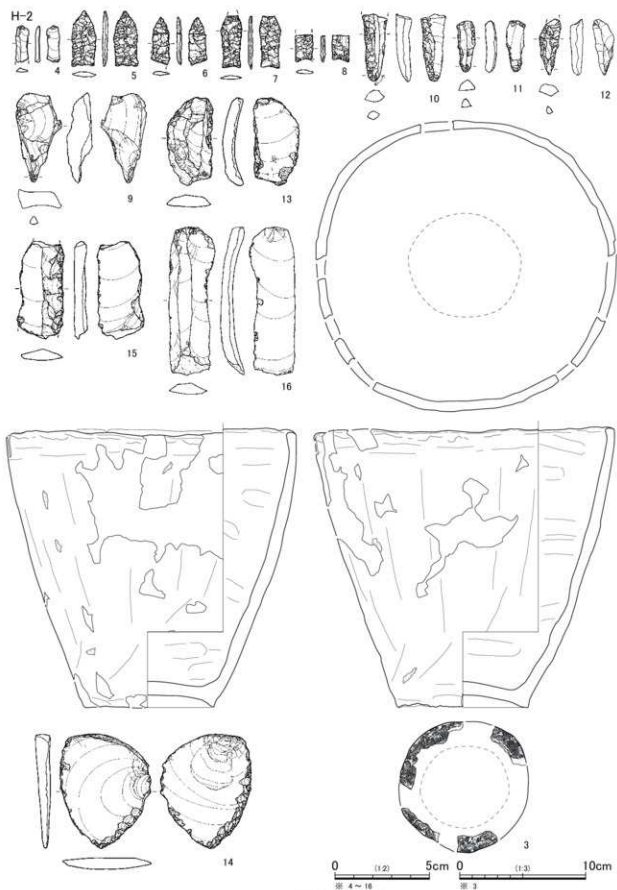
H-1



H-2

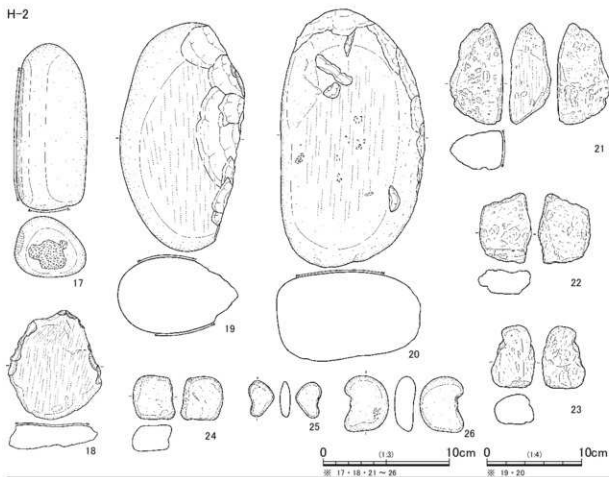


図V-1 H-1・2

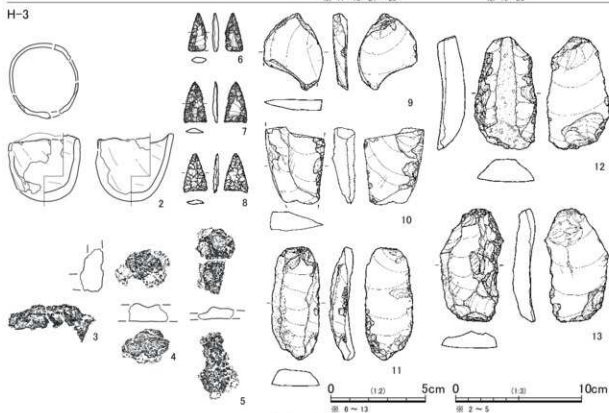


図V-2 H-2

H-2

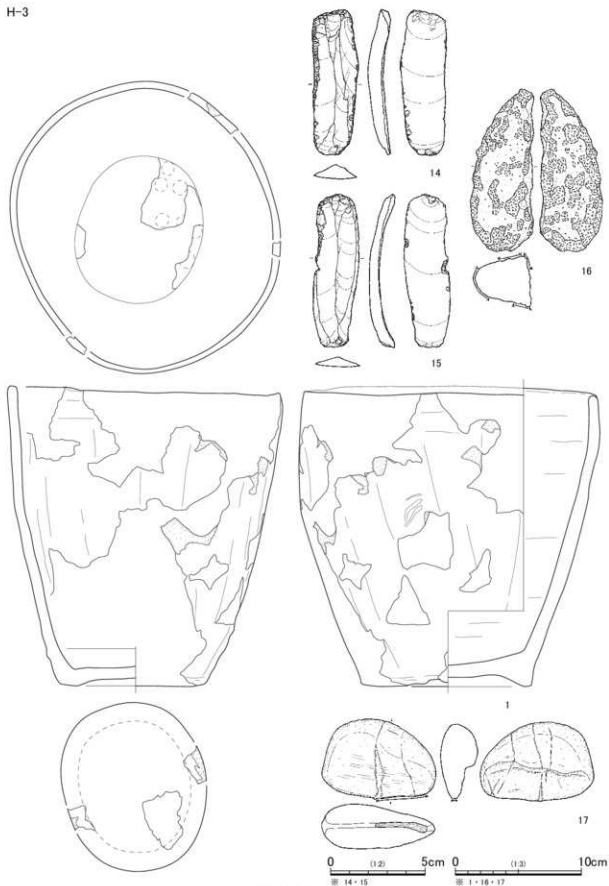


H-3



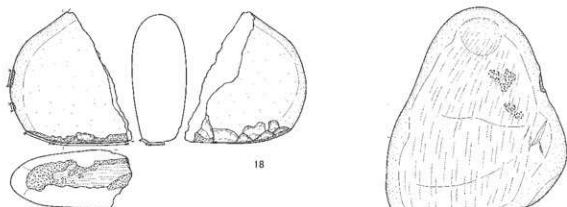
図V-3 H-2・3

H-3

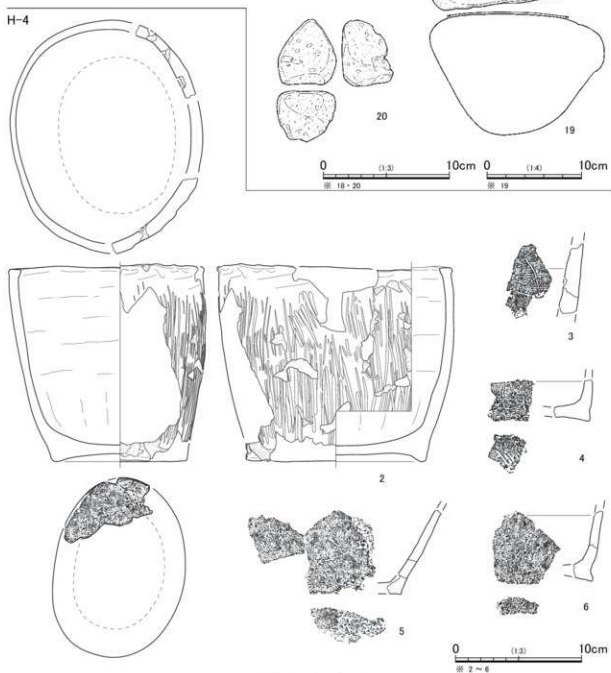


図V-4 H-3

H-3

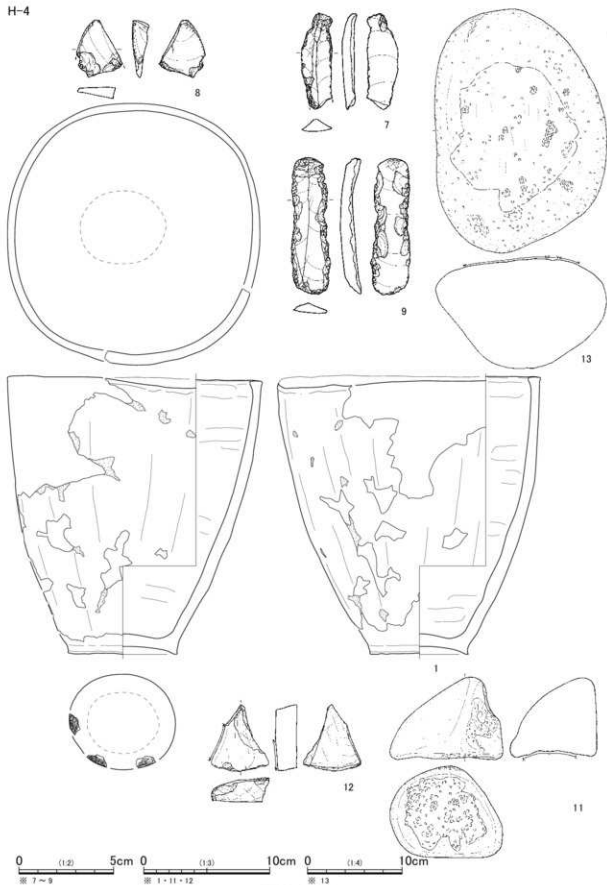


H-4

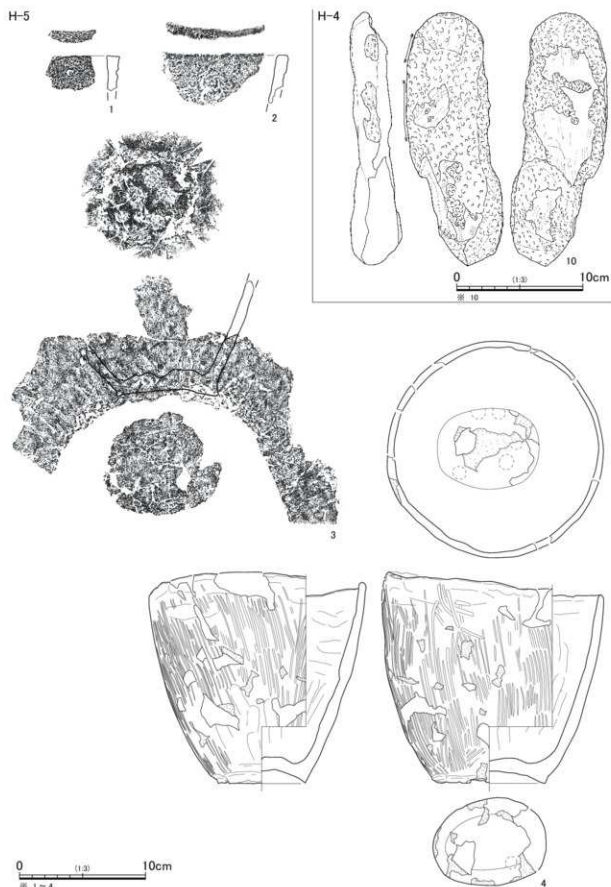


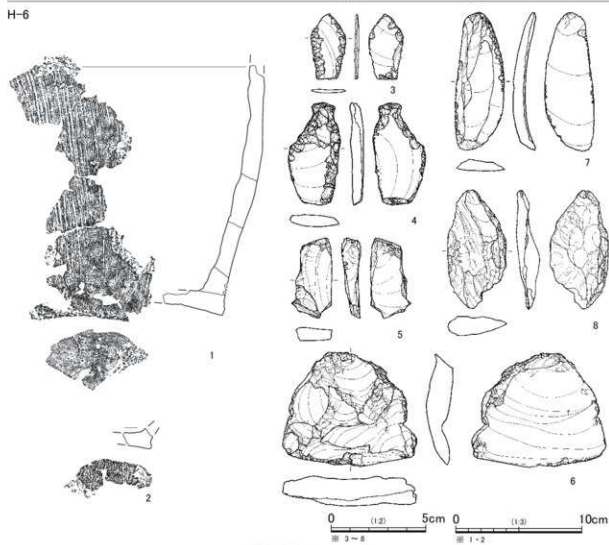
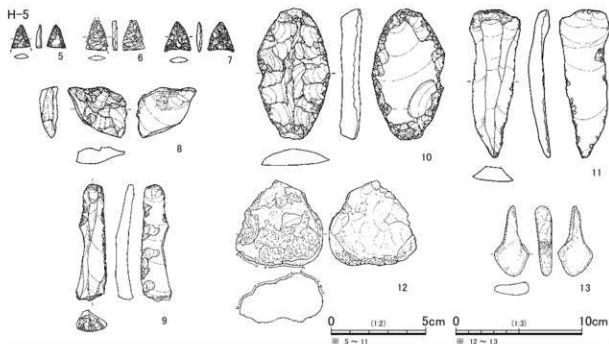
図V-5 H-3・4

H-4



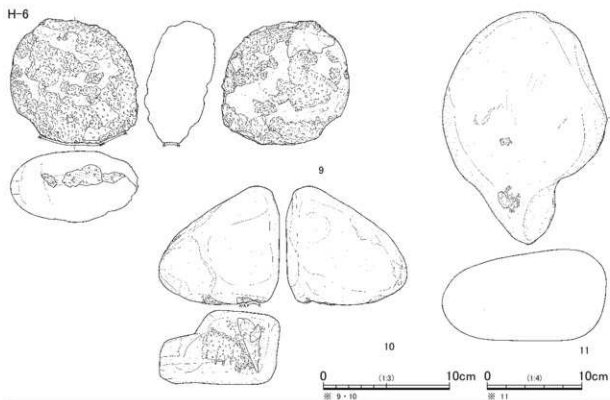
図V-6 H-4



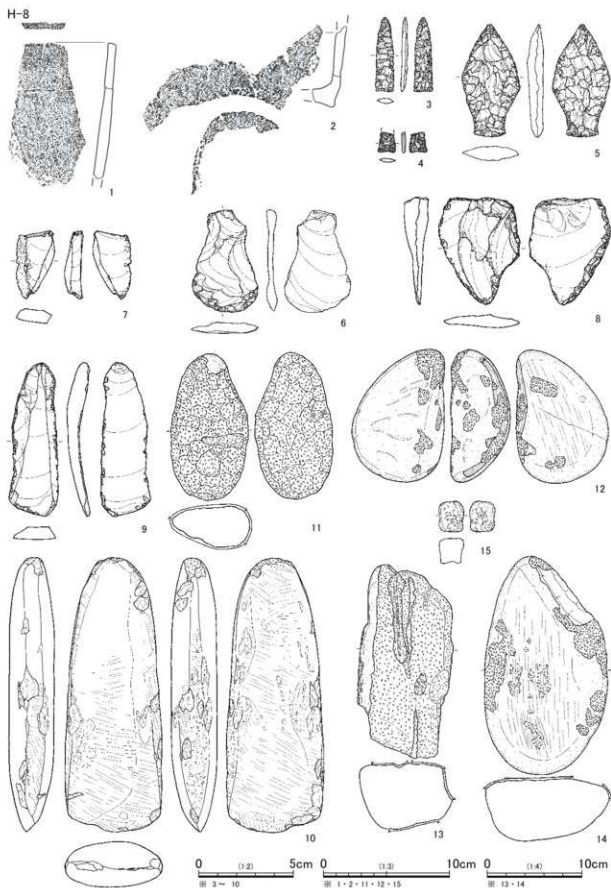


図V-8 H-5・6

H-6

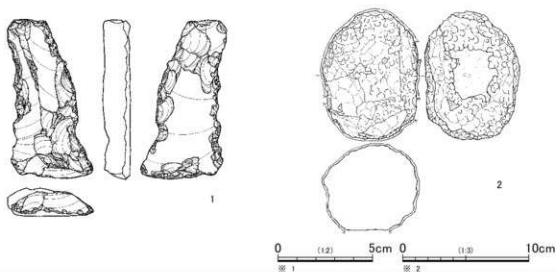


図V-9 H-6・7

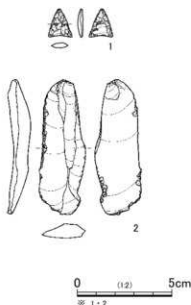


図V-10 H-8

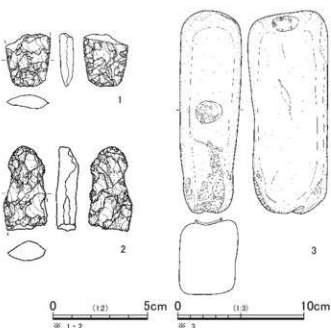
H-9



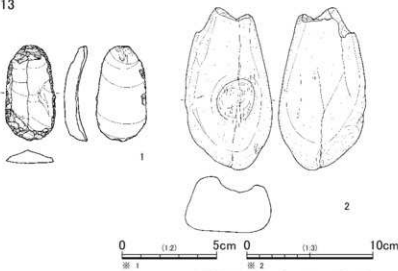
H-11



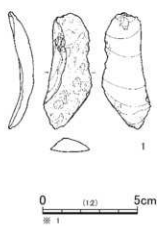
H-12



H-13

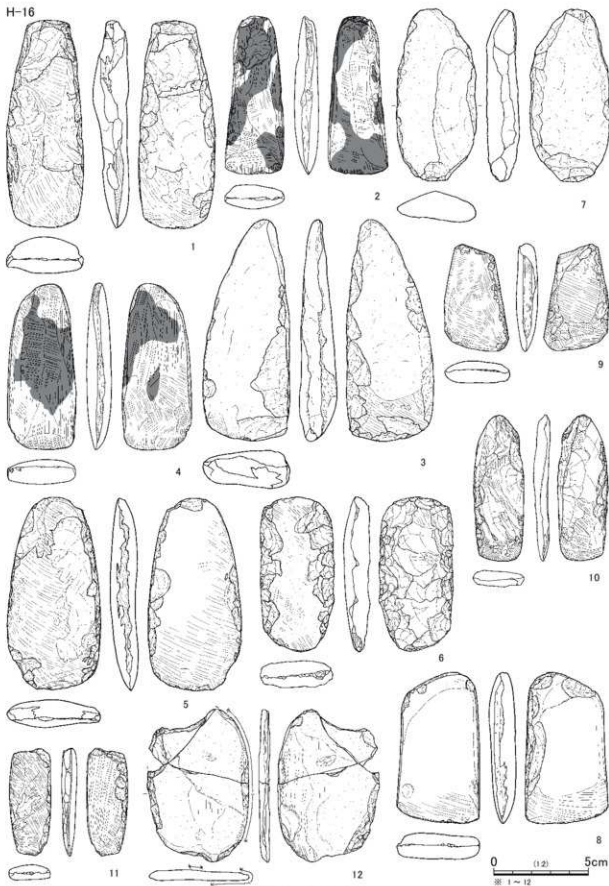


H-15



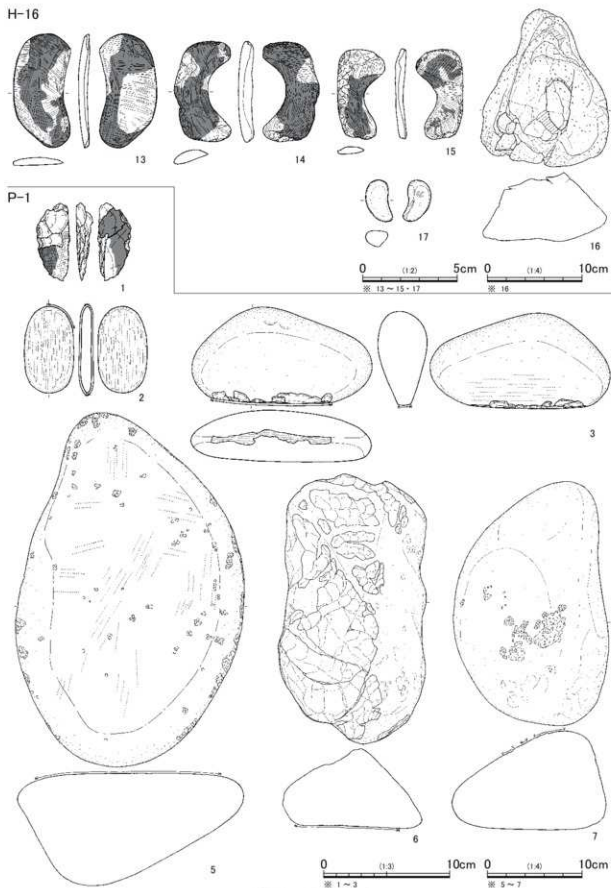
図V-11 H-9・11~13・15

H-16



図V-12 H-16

H-16



図V-13 H-16・P-1